

アワボスゲ *Carex brownii* Tuck.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更コード 4

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I) 現状不明] : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~70 cm。根茎は短く叢生する。茎の基部の葉鞘は濃赤色。葉は幅 3~7 mm。果期は 4~6 月。小穂は 3~4 個。頂小穂は雄性で長さ 1.5~3 cm。側小穂は雌性で長さ 1.5~3.5 cm。果胞は長さ 3 mm、広卵形で上端は急に短い嘴になり、長さ 3 mm 程度。ヤワラスゲに似る。

2. 分布

国外では東アジアに、国内では北海道から九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地の湿った草地に生育する。

4. 生育状況

掛川市内に少数株が生育する。近年、現存が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

里山の草地に生育するため、土地造成による生育地の消失 (23) と草地の管理放棄による遷移進行 (53) で消滅する危険性がある。

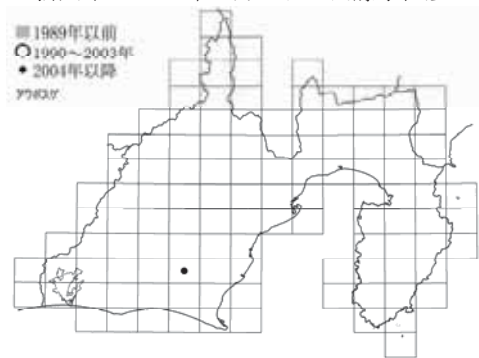
6. 保護対策

耕作地周辺の草刈りなどの管理継続が必要である。また、生育地を含めた里山環境の保全が重要である。

(内藤宇佐彦)



掛川市 2010年5月9日 内藤宇佐彦



ハシナガカンスゲ *Carex phaeodon* T. Koyama

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~35 cm。長い匍匐枝を伸ばして、まばらに叢生する。茎の基部の葉鞘は赤褐色。葉は常緑で幅 2~5 mm。果期は 4~5 月。頂小穂は雄性で紫褐色、長さ 1.5~3 cm。側小穂は雌性で 2~4 個つき、長さ 1~2.5 cm。果胞は長さ 4~4.5 mm、無毛で嘴は長く、熟すと外曲する。

2. 分布

日本固有種で、本州 (山梨県と静岡県) に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

山地の樹林内や岩場。

4. 生育状況

産地も個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) などによる生育環境の急激な変化が減少の主要因である。

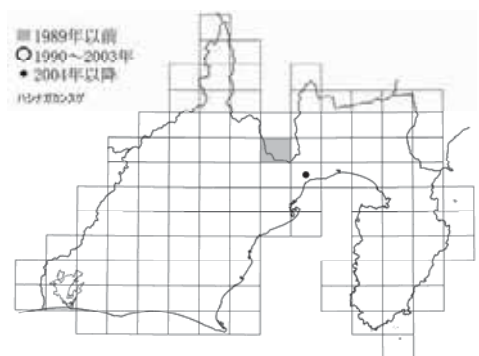
6. 保護対策

湿潤な岩場や林内に生育するので、山林伐採などで生育地を乾燥させないこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2017年4月30日 内藤宇佐彦



オオクグ *Carex rugulosa* Kük.

(=オオムシヤスゲ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~70 cm。長く横に這う根茎から、まばらに生える。茎の基部の葉鞘は赤色。葉の幅は5~10 mm。果期は5~7月。上部の小穂3~5個は雄性で長さ2~4 cm、下方の2~4個は雌性で円柱形をなし、長さ3~5 cm。果胞は長楕円形で長さ6~7 mm。隆起した細脈がある。河口などの塩湿地に生えるシオクグは、葉の幅が4 mm以下で、雌性小穂の長さも1~3 cmと短い。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、ウスリーに、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

海水の出入りする河口や湖岸。

4. 生育状況

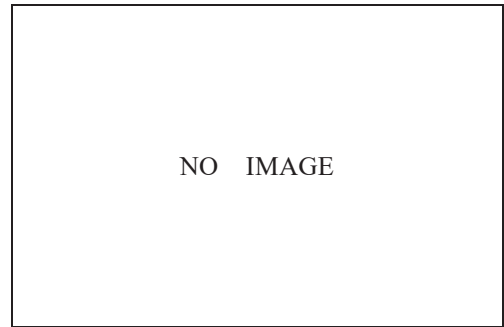
浜名湖の湖岸に生育していた記録があるが、近年生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

湖岸の開発整備 (12)、釣り人の踏みつけ (51)。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育環境に配慮した保護が必要である。
(湯浅保雄)



タカナナルコ *Carex siroumensis* Koidz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~30 cm。匍枝がなく、大株を作る。茎の基部の葉鞘は褐色。葉は幅1~2.5 mm。果期は7~8月。小穂は3~6個ついて、頂小穂は雌雄性または雄性、側小穂は雌性で長さ1~2.5 cm、棍棒状長楕円形。果胞は披針形で扁平、長さ5~6 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島北部、中国東北部に、国内では本州中部に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩混じりの草地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈 (間ノ岳、塩見岳、小河内岳、荒川岳、東俣、光岳) に生育するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

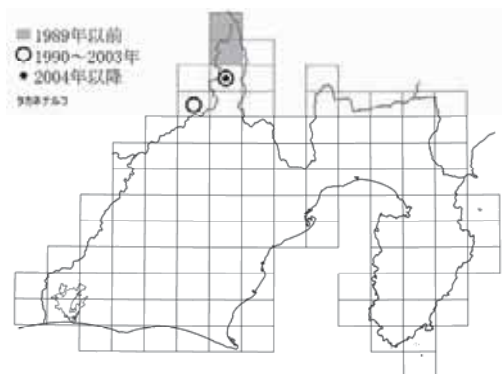
登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54)。

6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。
(齊藤 猛)



静岡市 2015年7月30日 室伏幸一



ノハラテンツキ *Fimbristylis pierotii* Miq.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~60 cm。地中を横に這う根茎がある。茎は単生し、基部に少数の葉を叢生する。葉は茎より短く、幅は 1~2 mm。果期は 7~10 月。茎の頂に 3~10 個の小穂をつける。小穂は広披針形で長さ 7~15 mm。果実は白色で 3 稜のある広倒卵形、長さ 1.2 mm、表面に小さい泡状の突起がある。

2. 分布

国外では中国、フィリピン、インドに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい湿性の草地や林縁。

4. 生育状況

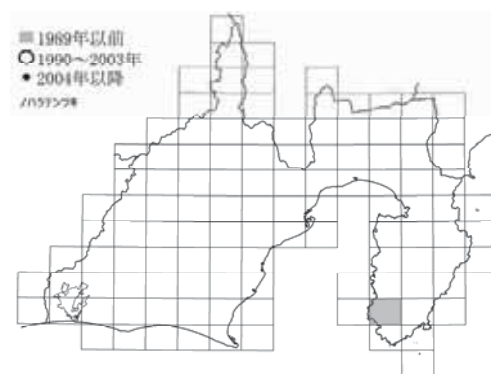
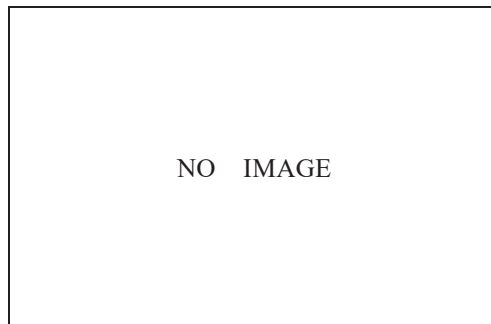
静岡県植物誌 (1984) に南伊豆町伊浜と波勝崎の記録があるが、前回 (2004 年) 調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

生育草地の人工林化や開発 (16) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境に配慮して保護すること。
(湯浅保雄)



トネテンツキ *Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch.

var. *tonensis* (Makino) Ohwi ex T. Koyama

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 15~25 cm。茎は細く線形の葉を叢生する。茎と基部の葉鞘は扁平。小穂は卵形で、小花の柱頭は長く伸び、花柱とともに長さ 2.5~3 mm。柱頭はふつう 3 岐する。果期は 7~9 月。果実は長さ 0.8~1 mm、楕円形で格子状の紋がある。花柱は果時にも宿存する。類似するハタケテンツキの花柱も宿存するが、トネテンツキに比べ柱頭は短く、花柱とともに 1.5~2 mm なので区分できる。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (関東~近畿地方) に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地の河畔や湿地、またはため池の岸边。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に小笠山の記録があるが、その後確認されていない。

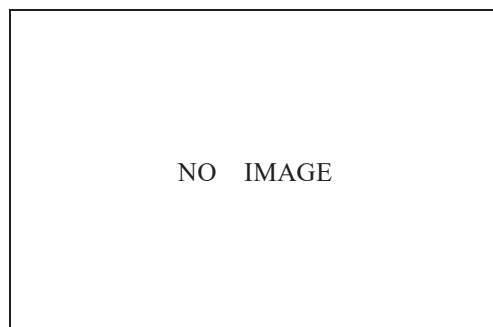
5. 減少の主要因と脅威

池沼や湿地の開発 (12, 15) が減少の主要因であろう。

6. 保護対策

生育地が見つかった場合は、生育環境に配慮して保全すること。

(湯浅保雄)



ミクリガヤ *Rhynchospora malasica* C. B. Clarke

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~100 cm。葉は中ほどに集まってつく。頭状花序は 2~5 個つき球形で径 1.5 cm。小穂は長さ 6~7 mm。果期は 7~10 月である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、マレー半島、インドネシアに、国内では本州（東海地方、近畿地方南部、中国地方）、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

低山地の湧水湿地に生育する。

4. 生育状況

湖西市の記録がある。近年生育が確認されていない。絶滅しているおそれがある。

5. 減少の主要因と脅威

宅地造成による湿地の開発 (15)、管理放棄による遷移進行 (53) などがその要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は生育地の保全に努める必要がある。

(内藤宇佐彦)



愛知県 1987年9月12日 内藤宇佐彦



ミカワシンジュガヤ *Scleria mikawana* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 30~90 cm。茎は束生する。葉は狭い線形で長さ 10~40 cm。葉鞘で茎を包み翼はない。花期は 7~10 月。分花序は 2~3 個あり長さ 2~4 cm。果実は球形で径 1.8~2.5 mm、灰色で光沢がなく格子紋があり暗灰色に熟す。近縁種のコシンジュガヤは葉鞘に広い翼がある。

2. 分布

国外ではインド、ニューギニア、アフリカに、国内では本州（茨城県以西）、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の辺縁に生育する。草木が疎らな痩せた土壌で、水がしみ出る程度の水湿地が適性環境である。

4. 生育状況

西部で確認されているが、乾燥化により植生遷移が進行している。産量は少ない。生育範囲が狭く、産量は年による消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発 (15) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。

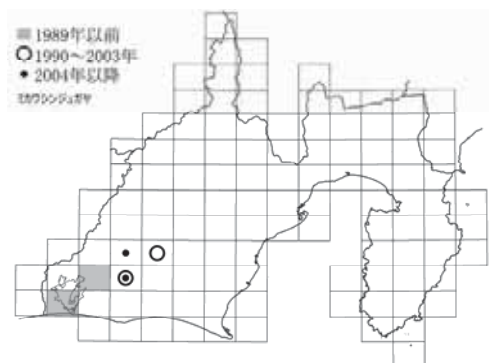
6. 保護対策

草刈りなど植生遷移を抑制して生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2012年10月8日 宮崎一夫



タカナタチイチゴツナギ *Poa glauca* Vahl

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。イチゴツナギにやや似るが、丈は低く、稈は平滑で、葉舌ははなはだ短く、切形。基部に短い根出葉が集まるのが目立つ。花期は6~8月。花序は長さ3~7 cm、披針形で、枝は短い。小穂は長さ3~4 mm、2~3小花からなり、護穎は長さ2.5~3 mm、ほとんど綿毛がない。葯は長さ1.2~1.5 mm。

2. 分布

国外ではサハリン、朝鮮半島北部から北半球の高山に、国内では本州中部の高山(北アルプス、南アルプス、八ヶ岳)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩場や砂礫地に生育する。

4. 生育状況

南アルプス(荒川岳周辺)に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ(51)、シカ食害(52-1)、生育環境の変化による植生の遷移(54)があげられる。

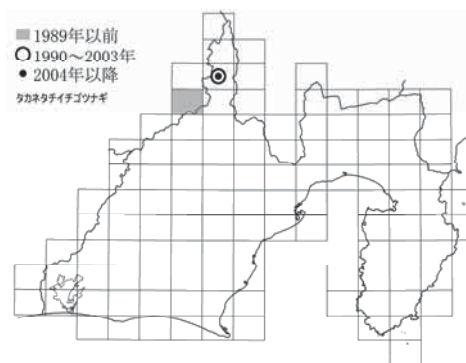
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(斉藤 猛)



静岡市 2019年8月1日 室伏幸一



タチイチゴツナギ *Poa nemoralis* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。イチゴツナギに似る。高さ40~60 cm。株を作らない。葉は葉鞘より長く(最上部の葉で3~4倍)、葉舌は短く切形で目立たない。花期は7~8月。花序は長く突き出る。小穂は扁平で長さ3.5~4.5 mm、2~4小花からなる。

2. 分布

国外ではアジア、ヨーロッパ、北アメリカなどに、国内では本州(中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の林内や草地に生育する。

4. 生育状況

大井川上流部に自生している。県内では帰化種と自生種があり、深山のものは自生種である。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)、河川の開発(13)や氾濫に伴う生育地の消失(55)が脅威である。

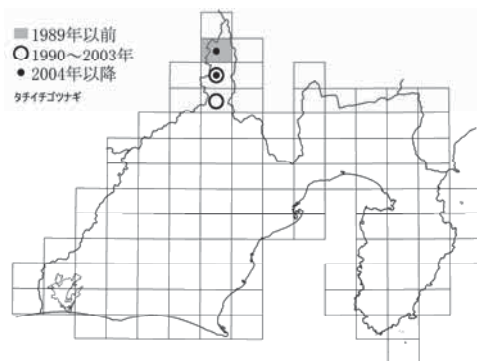
6. 保護対策

生育地が発見された場合は、範囲を特定して保護を図ることが必要である。自生種の保全が対象となる。

(内藤宇佐彦)



静岡市 2010年7月24日 内藤宇佐彦



ミヤマカニツリ *Trisetum koidzumianum* Ohwi

(=タカネカニツリ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~30 cm。花期は 7~8 月。円錐花序は密に小穂をつけ花軸、枝ともに無毛で平滑。小穂は長さ 3.5~5 mm。多くは 2 小花からなり、護穎の先は芒となり、くの字形に曲がる。基準標本産地は赤石岳である。

2. 分布

日本固有種で、本州 (中部) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布しており、南アルプスは南限自生地。

3. 生育環境

高山帯の草地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに生育する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の植生の遷移 (54) と登山者の踏みつけ (51) の影響が懸念される。

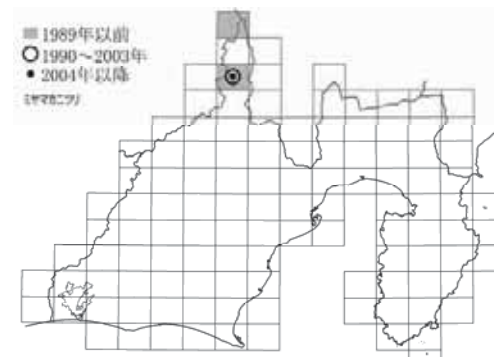
6. 保護対策

登山道以外に立ち入らないようにし、生育地の環境に変動を与えないような対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



静岡市 2009年8月23日 内藤宇佐彦



キタダケカニツリ *Trisetum spicatum* (L.) K. Richt. subsp. *molle* (Kunth) Hulthén

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~35 cm。リシリカニツリの毛の少ない亜種。全体に毛が少なく、ときには無毛に近い。花期は 7~8 月。小穂は長さ 6~7 mm、2~3 小花からなり、花軸の毛は微小でまばらである。

2. 分布

日本固有亜種で、本州中部の高山 (南アルプス、中央アルプス) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

高山帯のわずかに草が生えているような砂礫地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈 (間ノ岳、農鳥岳、広河内岳、荒川岳、東岳、千枚岳、大沢岳、兎岳、上河内岳~茶臼岳間) で記録があるが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) があげられる。

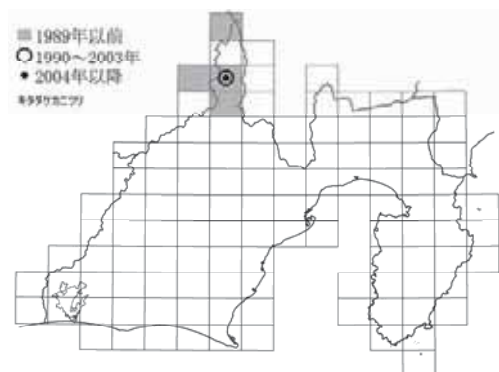
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(斉藤 猛)



静岡市 2019年7月30日 室伏幸一



ツルケマン *Corydalis ochotensis* Turcz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ケシ科 Papaveraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

一〜越年草。茎は1 m以上に伸びて、倒れて斜上し、あるいは地を這う。葉は2〜3回3出の複葉。花期は8〜9月。花は淡黄色で長さ15〜20 mm。蒴果は長倒卵形、長さ1〜15 mm、幅3.5〜4.5 mm。種子は黒色で2列に並ぶ。類似のナガミノツルケマンは、花は鮮黄色、蒴果は線状倒披針形で幅2〜2.5 mm。種子は1列に並ぶ。

2. 分布

国外ではシベリア東部、オホーツク沿岸に、国内では本州(中部地方以北)に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯山地の谷筋で、多少湿り気のある場所。

4. 生育状況

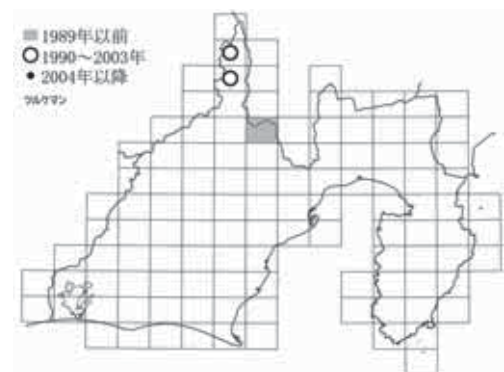
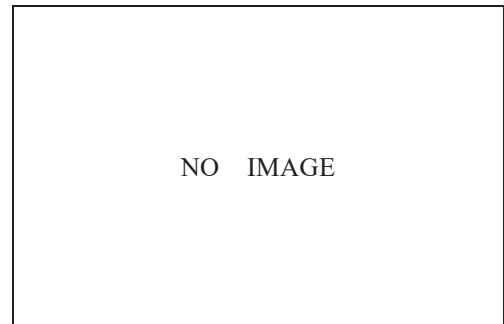
2004年度版RDBでは、大井川上流部に記録がある。今回の調査ではナガミノツルケマンは確認されたが、本種は確認されなかった。過去の記録はナガミノツルケマンの誤認も考えられるので、標本による再確認が必要である。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)による生育環境の変化が減少の要因である。

6. 保護対策

山林伐採による乾燥などの急激な環境変化を避けること。
(湯浅保雄)



ナガミノツルケマン *Corydalis raddeana* Regel

(=ナガエノツルケマン)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②) 変更コード4

ケシ科 Papaveraceae

[2004年版カテゴリ なし : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

二年草。茎には稜があり、倒伏しながら横に伸びて長さ1 mにもなる。2〜3回3出の複葉を互生する。小葉は長さ幅とも5〜10 mm。花期は7〜10月。花は鮮黄色で長さ15〜20 mm、苞は狭卵形。蒴果は線状披針形で幅2〜5 mm。種子はほぼ一列に並ぶ。類似のツルケマンは、花が淡黄色、苞は広卵〜卵形、蒴果の幅は3.5〜4.5 mmで種子は2列に並ぶ。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾、シベリア東部に、国内では本州、九州に分布する。県内では中部(大井川上流部)に分布する。

3. 生育環境

林縁や草地。特に林道沿いに多く見られる。

4. 生育状況

前回(2004年)調査時に比べると、林道の補修工事によって生育地が減少している。ツルケマンの誤認が多いようである。

5. 減少の主要因と脅威

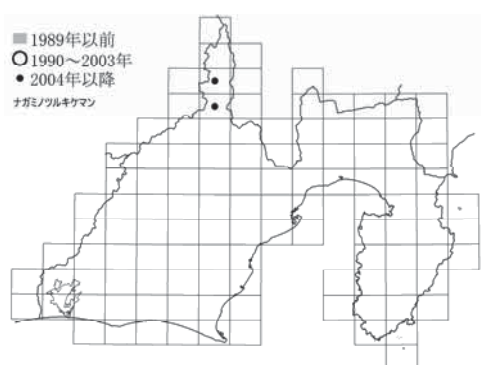
林道の補修工事(24)や植生遷移(54)。

6. 保護対策

林道の補修工事を行う際は、生育の確認を行い、群生地に手を加えないように配慮すること。
(湯浅保雄)



静岡市 2015年8月4日 湯浅保雄



ヒロハヘビノボラス *Berberis amurensis* Rupr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

メギ科 Berberidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さは3 mほどになる。枝には縦に稜と溝がある。葉は倒卵形ないし卵形。長さ3~10 cm、幅1.5~3 cm、先が刺状になった細かい鋸歯がある。花期は5~6月。短枝の先に総状花序を下垂し、10 数個の花をつける。花は黄色で径6 mmほど。果実は楕円形、長さ1 cmほどで赤熟する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、アムール地方に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山林内。

4. 生育状況

南アルプスの溪谷沿いの樹林下に比較的多く見られる。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) による生育地の環境変化が減少の主要因である。近年はシカによる食害 (52-1) も脅威である。

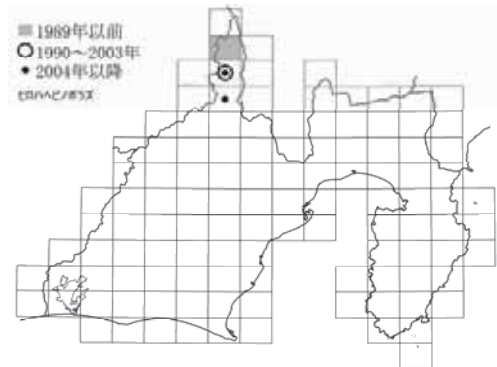
6. 保護対策

生育環境である森林を保全すること。

(湯浅保雄)



静岡市 2014年5月29日 湯浅保雄



オオサワトリカブト *Aconitum senanense* Nakai subsp. *senanense*

var. *isidzuka* (Nakai) Kadota

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

疑似一年草。高さ25~70 cm。茎の上部には開出毛がある。葉は5深裂し、裂片は羽状に深裂し細い。裏面脈状に開出毛がある。花期は8~10月。花色は青紫色。花弁の距が太くかつ長い。花柄には開出毛がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (山梨県、静岡県) に分布する。県内では東部に分布する。非常に良く似ているホソバトリカブトは富士山には分布しないこととなっている。

3. 生育環境

富士山の山地帯から亜高山帯の草地や林縁。

4. 生育状況

富士山西側の森林限界付近に見られる。

5. 減少の主要因と脅威

現在は増加傾向にあるが、花の美しい植物なので切り花として採取される (41) ことが懸念される。

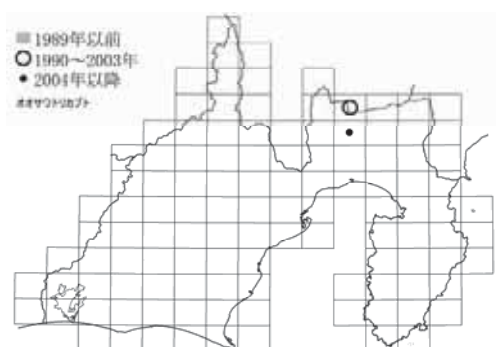
6. 保護対策

シカによる踏みつけを防ぐ対策を立てることと、貴重な植物であることを周知させること。

(湯浅保雄)



富士宮市 1995年9月23日 杉野孝雄



オキナグサ *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et J. Presl

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さは5~15 cm、花後には高さ40 cmに成長する。全草に白長毛がある。根茎は太く、根出葉は束生し、葉柄は長さ2~18 cm、葉身は三角状卵形で長さ4~15 cm。2、3回羽状複葉である。花期は4~5月。花は茎頂に単生して暗赤紫色の鐘形で長さ2~3 cm。萼片は6個。瘦果は紡錘形で長さ3 mm。花柱は伸長して長さ3~4 cmになり、灰白色の短毛が密生する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部、東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の日当たりのよい河川敷や草地に生育する。石灰岩地を好む。

4. 生育状況

産地は散在しているが、1989年以前よりも減っている。管理されている産地もある。株数も減少している。

5. 減少の主要因と脅威

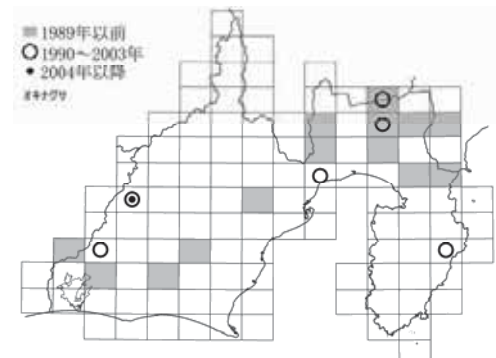
園芸目的の採取(41)である。草地の開発(16)や植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

草地の草刈りなどの管理と巡視により採取を防止する。野焼きをして潜在的な生育地を復元する。(宮崎一夫)



浜松市 2004年4月3日 宮崎一夫



ヒキノカサ *Ranunculus ternatus* Thunb.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ5~30 cm。根は紡錘形に肥厚する。根出葉は長さ0.5~4 cm、掌状に3~5裂し、裂片はさらに2~3裂する。花期は4~5月。茎頂に黄色い花が数個つき、径15 mm前後で、花弁は5~7個で光沢がある。瘦果は卵状球形、長さ1~1.2 mm。

2. 分布

国外では韓国(済州島)、台湾、中国南部に、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい湿った草地に生育する。

4. 生育状況

富士市、沼津市などに生育する。産地は少ない。草刈りなど定期的に管理されている場所では良好な生育がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

土地造成などの湿地の開発(15)、草刈りなどの管理放棄(53)で減少している。

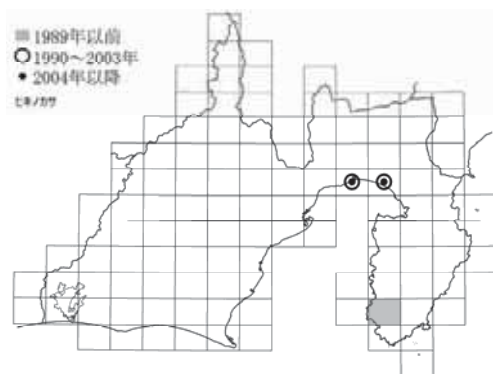
6. 保護対策

生育する湿地や水田の保全と、定期的な草刈りなどの管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



沼津市 2012年4月6日 内藤宇佐彦



トキワマンサク *Loropetalum chinense* (R. Br.) Oliv.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

マンサク科 Hamamelidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

常緑小高木。高さ3~6 m。葉はやや厚く、卵形または卵円形で長さ1.4~4 cm、両面に星状毛を散生。花期は4月中旬~5月。花は頂生して3~8個つき、花弁は4枚、長さ約2 cmで線形、黄白色である。蒴果は長さ6~7 mm。

2. 分布

国外では台湾、中国中南部、インド北部・東部に、国内では本州（静岡県、三重県）、九州（熊本県）に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は北東限自生地である。

3. 生育環境

暖帯の痩せ山に生育する。

4. 生育状況

湖西市内で1ヶ所生育する。発見当初は幼木も含め130株ほど見られたようだが、今では成木で約70~80株程度であり、幼木はほとんど見られず株数の減少傾向がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

アカマツの枯死などによる植生の変化(54)や、様々な人的干渉(71)が減少の要因である。

6. 保護対策

湖西市の産地は、県の天然記念物に指定されている。山林の間伐など遷移進行の抑制と保護区域内への立ち入り規制が必要である。(内藤宇佐彦)



湖西市 2017年4月15日 内藤宇佐彦



タチモ *Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②) 変更なし

アリノトウグサ科 Haloragaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。雌雄異株。茎は直立し分枝しない。湿地では高さ約5~20 cmであるが水中では50 cmにもなる。葉は3~4個輪生する。花期は6~8月、花弁は4個、長楕円状卵形で長さ約2 mm、淡紅色。石果は卵円形でイボ状突起と4溝がある。長さ約0.7 mm。

2. 分布

国外ではアムール、ウスリー、台湾、朝鮮半島、中国東北部に、国内では北海道から九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

貧栄養な湖沼やため池の水中、淡水の沼や湿地、水辺の湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、掛川、袋井、小笠山周辺、浜松、浜名湖周辺の池沼や水田に生育していた記録がある。しかし、前回(2004年)調査時にも確認できず、今回も確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

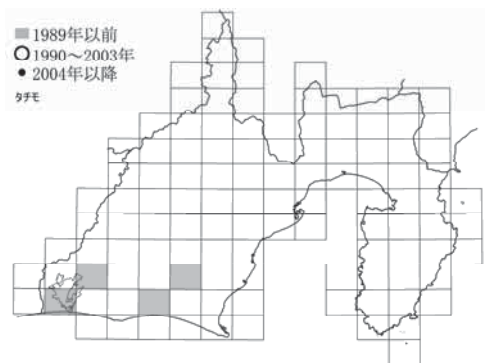
池沼の埋め立て(12)、水路のコンクリート化(13)、水田での除草剤散布(32)などが減少の要因と考えられる。

6. 保護対策

生育環境の保全が必要である。(湯浅保雄)



©フォトライブラリ



ハマビシ *Tribulus terrestris* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

ハマビシ科 Zygophyllaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草または越年草。茎は匍匐し1 mに達す。葉は偶数羽状複葉で大型葉と小型葉がある。大型葉は6~7対の小葉、小型葉は3~5対の小葉がつく。花期は7~10月。花は小型葉の腋につくか、大型葉と対生してつく。花弁は黄色で5個、長さ約5 mm。子房に白毛を密布する。蒴果は径約1 cm、果皮は硬く10本の刺と多くの刺状の毛がある。

2. 分布

国外では世界の熱帯から暖温帯の地域に、国内では本州(千葉県・福井県以西)、四国、九州に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に1951年に静岡市清水区の三保海岸で見られたとの記載があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発(14)と植生変化(54)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、ハマビシの生育環境を維持するために周囲の植生管理を行うこと。

(湯浅保雄)



© PIXTA



イヌハギ *Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Siebold. ex Maxim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草しばしば半低木。高さ60~90 cm。全体に黄褐色の軟毛がある。葉は3出複葉で互生し、小葉は楕円形で長さ3~6 cm。表面は緑色。裏面は白色を帯びる。花期は7~9月。枝の上部の葉腋から総状花序を出し、白色の蝶形花を多数つける。花の長さは7~8 mm。旗弁の中央に赤い線がある。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、インド、ヒマラヤに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の河原や海に近い砂地、山地の草原などに生える。

4. 生育状況

過去には県内の広い範囲で見られたが、今回の調査では確認することはできなかった。

5. 減少の主要因と脅威

草地開発(16)が減少の主要因と考えられる。

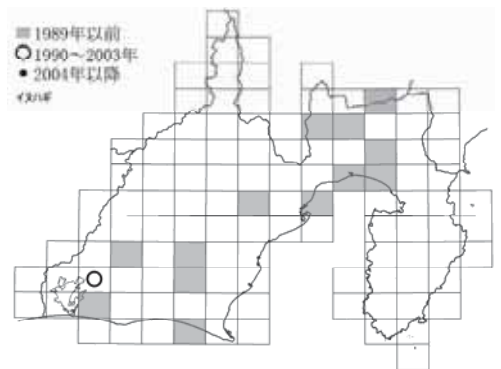
6. 保護対策

産地が確認されたら、生育環境とともに保護すること。

(湯浅保雄)



浜松市(植栽) 2007年9月15日 宮崎一夫



ヒナノキンチャク *Polygala tatarinowii* Regel

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ヒメハギ科 Polygalaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。高さ7~15 cm。葉は卵形で長さ1~3 cm。葉縁は全縁で、細毛がある。花期は7~10月。花は淡紅紫色で長さ2~4 mm、やや側生して密につき総状花序をなす。萼片は5個で、側萼片2個は竜骨弁の左右斜め下に花弁のように開く。花弁は3個で竜骨弁は丸い袋状で先が尖る。果実は茎の片側に片寄ってつき、緑色の扁平な楕円形で径3 mm。近縁種のヒメハギは多年草で花の長さが6 mmである。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾、東南アジアなどに、国内では本州(福島県、山形県以南)、四国、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい原野や崩壊地、石灰岩地に生える。

4. 生育状況

前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移による生育に対する圧力(54)が主要である。

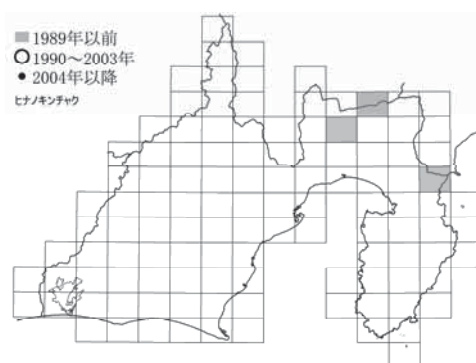
6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑える施策をとるべきである。

(宮崎一夫)



山梨県 2018年9月23日 宮崎一夫



ハゴロモグサ *Alchemilla japonica* Nakai et H. Hara

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~40 cm。葉は長い柄があり根生する。葉身は円心形で径3~7 cm、浅く7~9裂し、縁に歯状の鋸歯がある。両面には軟毛がある。花期は7~8月。花柄の上部に散形の花序を作って黄緑色の小花を密生する。花には花弁はない。萼片、副萼片、雄蕊も4個。

2. 分布

国外ではサハリンに、国内では南千島、北海道、本州に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山の草原に生育する。

4. 生育状況

前回(2004年)の調査でも、今回の調査でも南アルプスの一部で確認されたに過ぎない。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境が少ない(71)ことと、繁殖力の弱さ(71)が減少の主要因である。近年はシカによる食害(52-1)も脅威である。

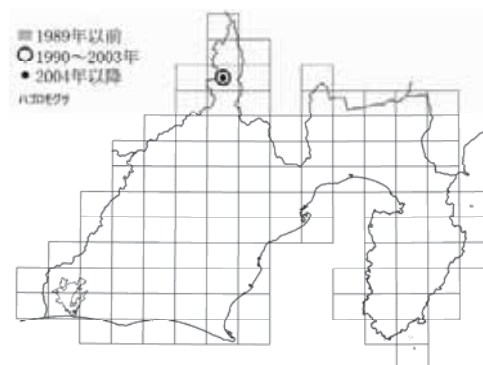
6. 保護対策

生育地に立ち入らないようにし、踏みつけを防ぐことが必要である。

(湯浅保雄)



静岡市 2019年8月1日 室伏幸一



ヨコグラノキ *Berchemiella berchemiifolia* (Makino) Nakai

(=エイノキ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

クロウメモドキ科 Rhamnaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉小高木。高さ3~7 m。枝は紫褐色を帯び無毛。葉は長楕円形または卵状長楕円形、鋭尖頭、全縁。長さ6~13 cm、幅3~5 cm。裏面は粉白色。側脈は7~10対。花期は6月。花序は小さな集散花序で、枝の上部の葉腋に出て、枝の先では長さ5 cmほどの穂になる。花は小さく黄色で、径3~3.5 mm。核果は円柱状長楕円形、長さ7~8 mm。黄色から紅色を経て暗赤色となる。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島南部に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の山地に生育する。

4. 生育状況

牧ノ原市の山地で確認されている。南伊豆町の産地は、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

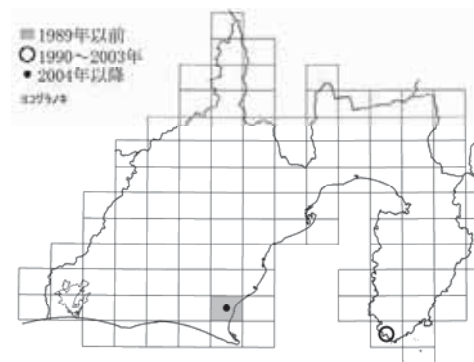
石灰岩の採掘(17)と森林の伐採(11)及び植生遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の保全と植生管理を行うこと。(湯浅保雄)



©2020 K. Murofushi
牧之原市 2019年6月9日 室伏幸一



コバノチョウセンエノキ *Celtis biondii* Pamp.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

アサ科 Cannabaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉小高木。エノキに似るが、葉身は長さ3~7 cmでややかたく厚く、中部以上に少数の鋸歯があり、先端は尾状に伸び、表面に伏粗毛がある。花期は5月。雄花、雌花は小さく、若枝に脇生する。果実は黒褐色に熟す。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾に、国内では本州(静岡県、愛知県以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

石灰岩の岩上に生育する。

4. 生育状況

旧引佐町内の石灰岩露頭にごく少数の個体が生育している。

5. 減少の主要因と脅威

石灰岩の採掘(17)や伐採(11)が減少の要因と考えられる。

6. 保護対策

今では石灰岩の採掘は行われていないが、貴重な木であることを認識して伐採しないように注意が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U. Naito
浜松市 2002年9月16日 内藤宇佐彦



フジタイゲキ *Euphorbia watanabei* Makino subsp. *watanabei*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

トウダイグサ科 Euphorbiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ1 m以上。花期は3~8月(最盛期6月)。総苞葉はほぼ4枚。腺体は円頭形。ススキ草原に生えるのが特徴。近縁のイフタイゲキは海岸岩場に生え、花期の最盛期は4月、草丈は40~80 cmである。

2. 分布

静岡県の固有亜種であり、伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

ススキ草原に生育する。

4. 生育状況

富士山麓で最初に記録され、各地に群生地があったようだが、そのほとんどは現状が確認できないようである。掛川市、菊川市の茶草場にかなりの個体数が発見された。静岡空港の敷地で保護され増えている。最近、富士山麓東富士演習場でも再確認されている。

5. 減少の主要因と脅威

茶草場としても邪魔者であり、重要さを周知徹底しないと排除される。管理放棄(53)、草地開発(16)などの懸念はある。触るとかぶれる植物であり、園芸的な採取の対象になるものではない。

6. 保護対策

森林化などの遷移を防ぐ必要がある。定期的な草刈り、火入れなどは欠かせない。
(西口紀雄)



掛川市 2014年6月6日 宮崎一夫



カンコノキ *Glochidion obovatum* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ミカンソウ科 Phyllanthaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉または半落葉低木。雌雄異株または同株。高さ1~6 m。短い小枝の先端部分は刺状となる。葉は倒卵形から狭卵形で互生する。長さ2.5~5.5 cm、幅1.5~2.5 cm。裏面は多少粉白色を帯びる。花期は7~10月。葉腋に花柄のある小さな白色の花を束生する。萼は6裂して長楕円状卵形。花卉はない。雄花には3本の雄蕊、雌花には6室の1子房がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から亜熱帯にかけての海岸に近い丘陵地の草原や疎林。伊豆では崖地のウバメガシなどの林内に点在する。

4. 生育状況

下田市に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

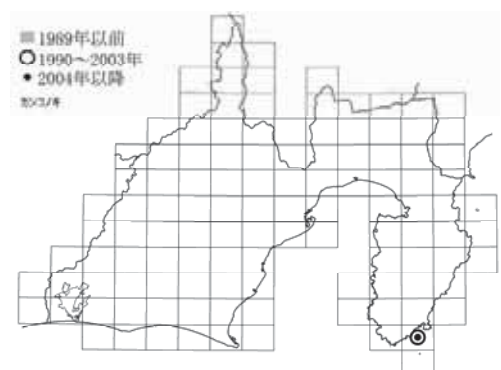
土地開発(23)や道路拡幅工事(24)などが減少の主要因である。

6. 保護対策

林縁にも生えるので、道路の法面や林縁の競合する植生を整理するなど対策を立てること。
(湯浅保雄)



下田市 2010年11月14日 加藤 徹



ヒトツバハギ *Flueggea suffruticosa* (Pall.) Baill.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ミカンソウ科 Phyllanthaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。雌雄異株。高さ2~3 m、よく分枝する。2年目の枝には皮目が多い。葉は互生。葉身は長楕円形、長さ4~7 cm、縁は全縁で両面とも無毛。表面は緑色、裏面は白色を帯びる。花期は6~8月。雄花は葉腋に多数つく。花弁はなく、萼片は5個、長さは1.5 mmほど。雌花は葉腋に1~5個つく。花弁はなく、萼片は5個、花柱は3個。蒴果は扁球形で、径4~5 mm。

2. 分布

国外では中国、東シベリア、ヒマラヤ、朝鮮半島に、国内では本州(中部地方以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の土手や疎林内。

4. 生育状況

本数は少ないが、各地に点在している。

5. 減少の主要因と脅威

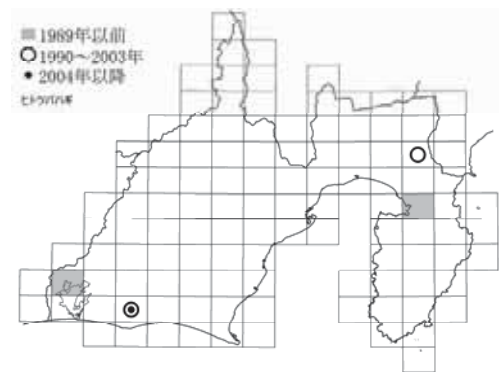
希少な植物と認識されずに、除草作業(71)によって他の植物とともに刈り取られることが考えられる。

6. 保護対策

花も目立たない植物なので、広くヒトツバハギの存在を知らしめること。
(湯浅保雄)



©2020 U.Naito
浜松市 2017年8月12日 内藤宇佐彦



ミヤマスミレ *Viola selkirkii* Pursh ex Goldie

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①,②,③) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ3~10 cm。無茎種。地下茎は細く、開花後に地下匍匐枝を伸ばし新株を作る。葉は卵円形で、先端は急に尖り、基部は深い心形。縁には荒い鋸歯がある。両面とも浅緑色で長さ2~4 cm。花期は4~5月。花は紅紫色、唇弁の基部は白色で紫色の筋がある。側弁は無毛。

2. 分布

国外ではヨーロッパ、北アメリカの冷温帯域、中国、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉樹林内。

4. 生育状況

主に匍匐茎で繁殖しているためか、分布範囲は広いが個体群は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

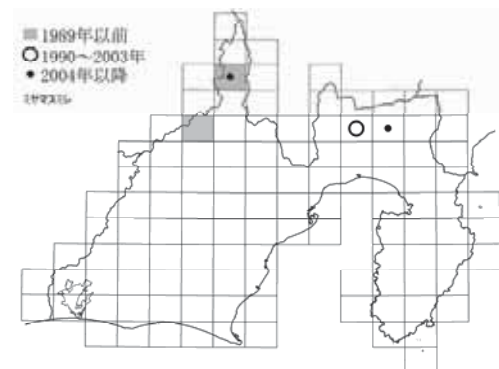
森林の伐採・更新(11)による生育環境の変化が減少の主要因である。

6. 保護対策

自生地が確認されたら、その森林を伐採しないようにすること。
(湯浅保雄)



©2020 Y.Yuasa
静岡市 2017年5月20日 湯浅保雄



マツバニンジン *Linum stelleroides* Planch.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

アマ科 Linaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

一年草。高さ 40~60 cm。茎は無毛で細く直立し上半は分岐する。葉はほぼ全縁無柄で互生し線状楕円形で3脈がある。花期は 8~9 月。萼片は縁に突起状の黒色腺点がある。花冠は径約 1 cm、花は晴天の昼前頃に開き、午後には落花する。花弁は淡紅紫色で青い筋がある。果実は径 4 mm。近似種のキバナノマツバニンジンが花が黄色で帰化種である。

2. 分布

国外では東南アジアに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と伊豆に分布する。

3. 生育環境

温帯から暖帯の日当たりのよい、乾いた河原や山地の裸地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には東部と伊豆の各地に記録がある。競争に弱く環境の影響を強く受けている。近年の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

自然遷移による裸地や疎草地の減少 (54) である。

6. 保護対策

山焼きなどにより植生の遷移を止めることも保護手段の一つである。(宮崎一夫)



愛知県 2016年9月24日 宮崎一夫



アゼオトギリ *Hypericum oliganthum* Franch. et Sav.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

オトギリソウ科 Hypericaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~40 cm。茎は丸く稜がなく、斜上あるいは倒伏する。葉質は薄く柔らかく、葉身は長楕円~倒披針形。長さ 8~25 mm、幅 3~9 mm。葉身の内側には明点が密にあるか時には黒点のみあり、辺縁には黒点がある。花期は 7~8 月。径 10~15 mm の黄色の花をつける。萼片の内側の腺はほとんど明点。雄蕊は 20~30 個が 3 束。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州 (宮城県以南)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

原野や水田の畦、水路脇などの湿った陽光の地。

4. 生育状況

過去には数は少ないが各地に生育していたようだが、前回 (2004 年) 調査及び今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の減少 (15)、耕地整備による水田水路のコンクリート化 (13)、農薬の使用 (32)、水質の悪化 (31) が減少の主要因である。

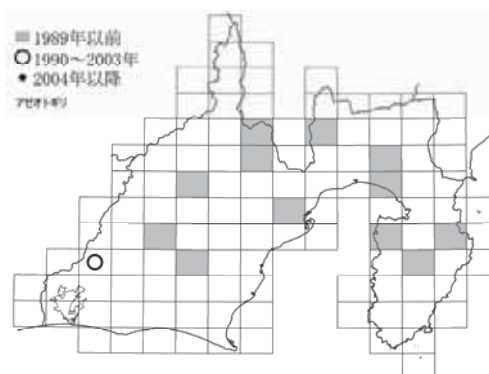
6. 保護対策

生育が確認されたら、その周辺の環境整備が必要である。

(湯浅保雄)



栃木県 2019年7月13日 室伏幸一



ミズキカシグサ *Rotala rosea* (Poir.) C. D. K. Cook

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ミソハギ科 Lythraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ10~30 cm。茎は直立し枝をわける。葉は対生し被針形で尖り、枝の葉はより小さい。花期は9~10月。花は茎の上部と葉腋につき、柄がなく、帯紅色である。果実は球形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、東南アジア、南アジア、アフガニスタンに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

水田や湿地に生育する。

4. 生育状況

かつては水田の雑草としてかなり見られた。前回(2004年)調査では西部と伊豆の中山間地の水田でごく稀に確認されたが、今回の調査では確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

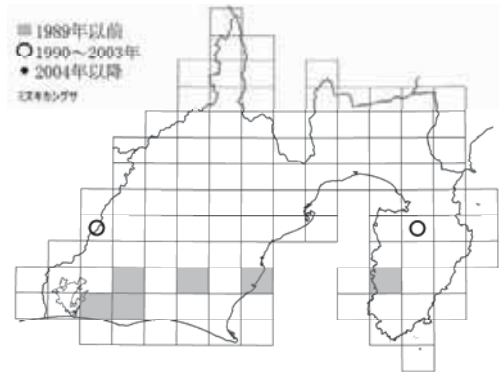
水田の除草剤使用(32)、耕作放棄など(53)が減少の主要因である。在来の水田雑草の激減が深刻である。

6. 保護対策

現存している水田での耕作形態の維持が必要である。
(内藤宇佐彦)



浜松市 1998年9月15日 内藤宇佐彦



ヒメビシ *Trapa incisa* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ヒシ科 Trapaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

浮葉生の一年草。浮水葉は広卵状菱形で径1~2 cm。沈水葉は糸状に羽状深裂する。裏面はほぼ無毛。花期は7~10月。花は両性花。花弁は白色でときに紅色を帯びる。径6~8 mm。萼片と花弁はともに5個。石果は倒3角形で宿存萼片が変化した4本の刺があり上部の幅は2~3 cm。

2. 分布

国外ではウスリー、中国東北部、朝鮮半島、台湾に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水路などの水中に生育する。

4. 生育状況

過去には中部と西部に広く分布していたが、それらのほとんどの場所で生育が確認できなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

池沼開発(12)、水路の整備(13)による生育地の減少と水質汚濁(31)などが減少の主要因である。

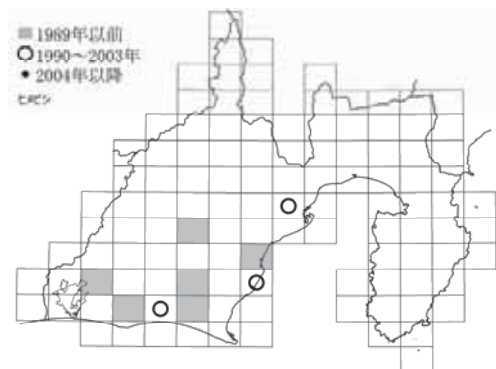
6. 保護対策

他のヒシ類との競合も考えられるので、生育が確認できたら他のヒシ類の生育を制御することも必要であろう。

(湯浅保雄)



磐田市 1993年9月12日 杉野孝雄



タチバナ *Citrus tachibana* (Makino) Tanaka

(=ニッポンタチバナ、ヤマトタチバナ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ミカン科 Rutaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑小高木。若枝は緑色。花期は6~8月。果実は扁球形、乾いて破裂し種子を飛ばす。果実は、酸味が強いが、甘みのある酸味だという。

九州などの自生地のタチバナは、朝鮮半島系の種の遺伝子に汚染されているとも言う。国内東限の自生地である伊豆半島のタチバナは貴重である。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

県内では沿海丘陵地の急斜面上部から稜線のスダジイやタブノキが優占する林内に生育する。

4. 生育状況

自生地は尾根を分けて2集団で、およそ70本ある。大きい木は樹高5~6m。胸高周囲30cmある。よく開花する。

5. 減少の主要因と脅威

多くは薪炭林用に伐採されたが、残存している。放置されると遷移が進み(53)、減少する危険がある。

6. 保護対策

スダジイやタブノキなど上部を覆う植物を間伐する必要がある。(西口紀雄)



沼津市 2009年5月11日 西口紀雄



クモイナズナ *Arabis tanakana* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B (EN) (要件-①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。茎は2~3本束生し、高さ3~13cm。根出葉はロゼット状、倒披針形で先は鋭形、長さ5~14mm、幅1~3mm。両面に星状毛がある。茎柄には柄がなく、長楕円形、長さ3~12mm。花期は7~8月。花弁は白色で長さ2.5~4mm。長角果は長さ10~12mmで多少ねじれる。種子は楕円形で長さ約1mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（中部）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。南アルプスは南限の自生地である。

3. 生育環境

高山の乾いた草原。

4. 生育状況

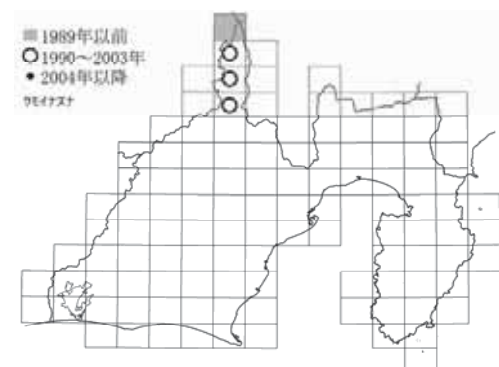
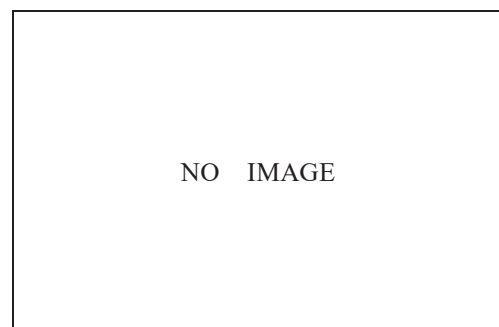
南アルプスのいくつかの高山に生育するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育に適した環境が少ない(61)ことと、繁殖力の弱さ(71)が減少の主要因であろう。

6. 保護対策

生育地に立ち入らないようにし、踏みつけを防ぐこと。(湯浅保雄)



シロウマナズナ *Draba shiroumana* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。茎葉は株状に密生し、高さ4.5~10 cm。根出葉は多く密生し、へら状線形から長披針形、長さ5~12 mm、幅1.5~2 mm。縁にだけ毛がある。花期は7~8月。花茎は高さ5~10 cm。上部に白色の花を密につける。短角果は広線形で、長さ約1 cm。種子は長さ1~1.5 mmで尾状の付属体はない。

2. 分布

日本固有種で、本州(中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。南アルプスは南限の自生地である。

3. 生育環境

高山帯の岩上や草地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに生育するが産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

生育に適した環境が少ない(61)ことと、繁殖力弱さ(71)が減少の主要因と考えられる。

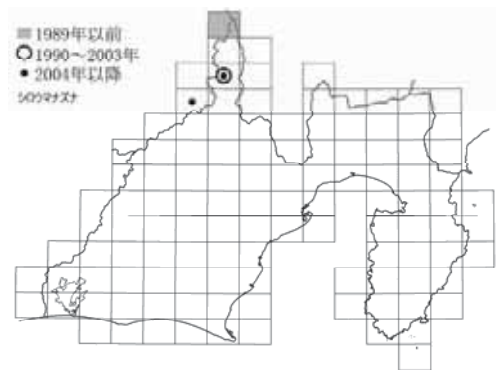
6. 保護対策

生育地に立ち入らないようにし、踏みつけを防ぐこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2018年7月26日 室伏幸一



コギシギシ *Rumex dentatus* L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech. f.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~50 cm。下部の葉には長柄があり、長楕円状倒披針形、基部は切形あるいはくさび形。長さ6~11 cm。花期は4~8月。円錐花序に小さな花が多くつく。果実を取り巻く花被は卵形、縁に1~1.8 mmの刺がある。中肋はこぶ状にふくれる。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州(関東以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の水田や河川沿いなどの湿ったところ。

4. 生育状況

水田に多く生育し、個体数も多いが、田植え前の耕耘によってすき込まれてしまうので、見落としが多いと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

田植えが早く行われるようになったこと(71)と除草剤使用(32)が減少の主要因である。

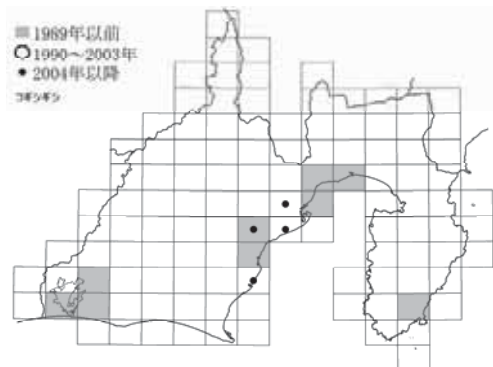
6. 保護対策

生育している田の耕耘や除草は種子が結実してから行いたい。

(湯浅保雄)



静岡市 2017年5月11日 湯浅保雄



ナガバノイシモチソウ *Drosera indica* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

モウセンゴケ科 Droseraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。地下に塊茎がない。茎の高さは7~20 cm。葉は互生し、狭線形で長さ4~7 cm、先は次第に細くなっている。表面に多数の長腺毛がある。花期は7~8月。葉に対生して総状花序を出し、まばらに数個の花をつける。花弁は5枚で白色あるいは淡紅色、長さ6~8 mm。

2. 分布

国外では中国、台湾、マレーシア、インド、オーストラリア、アフリカに、国内では北海道、本州(中部)、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に浜松市と湖西市、旧浜北市の記録があるが、前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

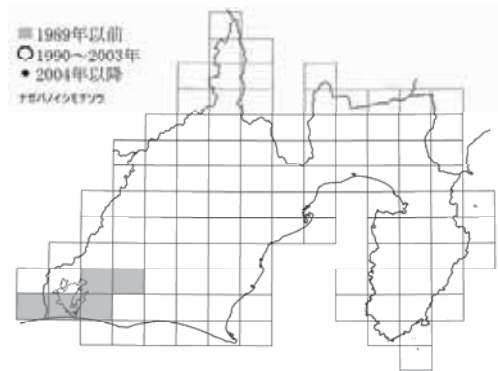
生育環境の消失(15)と園芸用採取(41)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育環境に配慮した保護が必要である。(湯浅保雄)



浜松市 1979年9月3日 杉野孝雄



ウメウツギ *Deutzia uniflora* Shirai

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

アジサイ科 Hydrangeaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

冷温帯に生育する高さ1 mほどの落葉低木。葉は楕円形で対生し、質は薄く、葉脈は裏面に隆起している。葉縁には不揃いな細かい鋸歯がある。今年枝は柄を持った荒い星状毛で密に覆われている。4~6月頃古い枝の正常葉のない葉腋に白い花を単生する。花弁は5個で梅の花に似ている。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方西部及び山梨県、静岡県)に分布する。県内では東部に分布する。朝鮮半島に産するチョウセンウメウツギと同一種とする意見が強い。

3. 生育環境

一般に石灰岩の岩地に生育すると言われるが、静岡県では急傾斜地の落葉樹林内に見られる。

4. 生育状況

個体数が非常に少なく、稀な植物である。今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

シカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

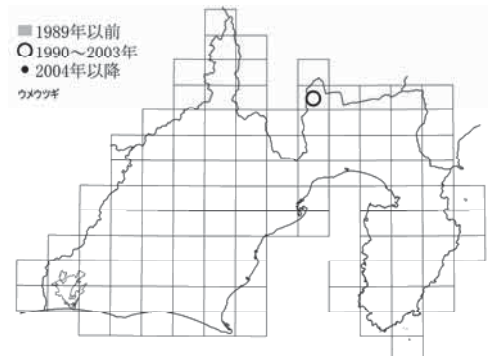
6. 保護対策

生育地を防護柵などで囲いシカによる食害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



山梨県 2018年5月12日 室伏幸一



オオツルコウジ *Ardisia walkeri* Yuen P. Yang

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

常緑小低木。高さ10~30 cm。匍匐茎は長く、葉をつけない。茎は斜上して、径2~3 mm、その上部には花序や葉柄とともに粒状毛と多細胞の褐色長開出軟毛がある。葉は茎の上部に3~4枚輪生状につく。葉は長楕円形で長さ5~13 cm、幅2~4 cm。類似のヤブコウジは多細胞の長毛がなく、ツルコウジは匍匐茎に葉をつけるので区別できる。本種はヤブコウジとツルコウジの雑種とも考えられている。

2. 分布

日本固有種で、本州(千葉県以西)、九州、伊豆諸島に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の林内に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には各地の記録があるが、その後、長い間生育が確認されていなかった。今回の調査でようやく1ヶ所の生育地が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

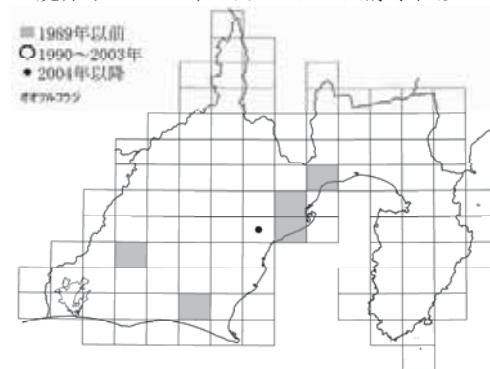
森林伐採(11)や植生遷移(54)による生育環境の変化が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地を最適な生育環境に保つこと。(湯浅保雄)



焼津市 2015年3月22日 内藤宇佐彦



サワトラノオ *Lysimachia leucantha* Miq.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~80 cm。横に這う地下茎から地上茎が直立する。葉は互生し倒披針状線形、黒色の腺点が散在する。花期は4~5月。花は白色で花弁は5枚、長さ4 mm。総状花序に多数つく。裂片は倒卵形で先は丸い。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

低地の日当たりのよい湿地に生育する。ヨシなどの背丈の高い草本に適度に守られている。

4. 生育状況

沼津市と富士市に生育する。秋から冬に草刈りが行われている生育地では、個体数も多く、生育は旺盛である。浮島公園では、手厚く保護されていて個体数は増加している。それ以外の自生地は壊滅したと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

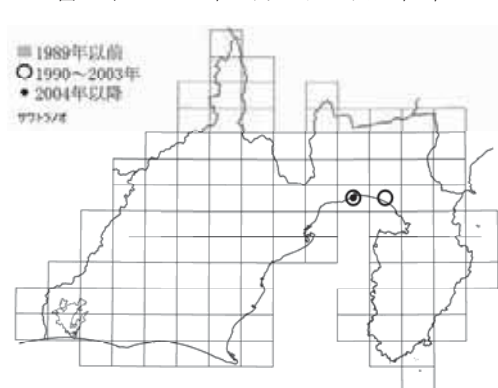
土地造成などの湿地開発(15)と管理放棄による植生の遷移(53)が減少の要因である。

6. 保護対策

生育地の一部は行政により保護されている。その他の生育地の保護も重要である。特定の遺伝子の集団のみの保護では、生命力の低下を招きかねない。保護には、冬期の草刈りが必要である。(西口紀雄)



富士市 2009年5月2日 西口紀雄



クリンソウ *Primula japonica* A. Gray

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~80 cm。地下茎は短く分枝して新たな株をつくる。葉は根生して長楕円形で長さ 15~40 cm。花期は 5 月。花茎を伸ばし 2~5 段に花を輪生する。萼は杯形で長さ 6~8 mm、5 中裂する。花冠は紫紅色で径 2~2.5 cm。花色に変異が多くある。蒴果は球形で径 7 mm。

2. 分布

国外では台湾に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

山地の凹地や谷間の明るくて湿った草地に生育する。

4. 生育状況

近年の確認地は標高 1,000 m の尾根であり自生環境とは思えない。また付近に昔の建物跡があり、当時に植栽した残存と思慮される。植栽したと思われる場所もある。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) による荒廃と乾燥化も脅威である。

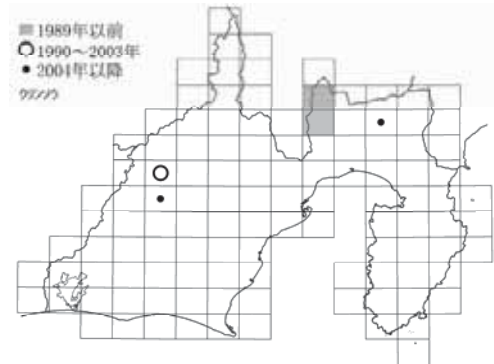
6. 保護対策

生育していた記録がある潜在的な生育地を復元保全する。

(宮崎一夫)



裾野市 2010年5月21日 宮崎一夫



サクラソウ *Primula sieboldii* E. Morren

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。花茎は 15~40 cm。葉は長さ 4~10 cm、長楕円~卵状楕円形で長い柄がある。花期は 4~5 月。花茎の先に 7~20 個の花を散形につける。花冠は紅紫色で深く 5 裂し径 2~3 cm。蒴果は扁球形で径 5 mm。

2. 分布

国外では中国東北部、シベリア、朝鮮半島に、国内では北海道南部、本州、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

湿り気の多い草地や川岸。

4. 生育状況

かつては富士山麓に広く分布していたが、今はわずかに残るのみである。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) と草地の開発 (16) や管理放棄 (53) による植生の遷移 (54) 。

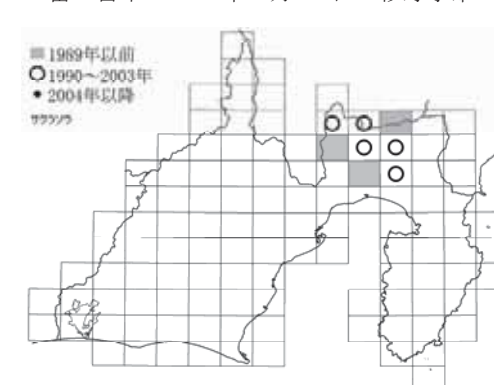
6. 保護対策

園芸採取の防止と生育地の植生管理。

(湯浅保雄)



富士宮市 1992年4月27日 杉野孝雄



ナガボナツハゼ *Vaccinium sieboldii* Miq.

(=ホナガナツハゼ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ1~2 m。葉の辺縁は全縁で、鋸歯はない。表面の主脈上に短毛が散生するほかは無毛。花期は5月。花は5~10 cmの総状花序に下を向いて多数つく。花冠は白色である。ナツハゼに似るが、包葉が大きい。

2. 分布

日本固有種で、静岡県西部から愛知県東部に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

痩せた低山地や台地の疎林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺や三方原台地の丘陵地の疎林で生育する。生育地は少なく、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

土地造成 (23) により減少した。また、遷移の進行による被陰 (54) も減少要因である。

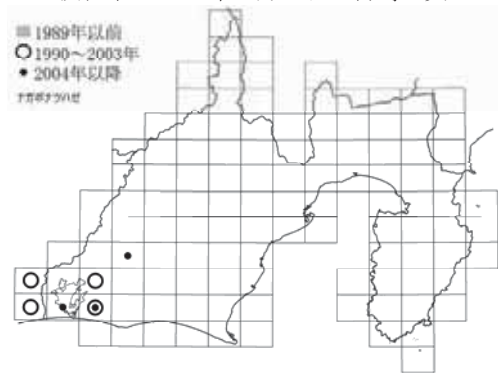
6. 保護対策

現存する生育地の保全と生育地における適度な雑木の伐採が必要である。また、誤って伐採することも注意が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2015年5月5日 宮崎一夫



ハナムグラ *Galium tokyoense* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

アカネ科 Rubiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。茎葉横に広がって斜上し長さ30~60 cm、4稜があり、稜には下向きの刺状毛がある。葉は4~6枚輪生し、倒披針形で長さ1~3 cm、幅3~7 mm。花期は5~7月。枝先と葉腋から花序を伸ばし、多数の白色の小花をつける。花冠は4裂し径2 mm。果実は平滑無毛か微突起がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東部に、国内では本州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

川岸の湿った草地。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に富士山麓での確認の記載があるが、前回 (2004年) 調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の環境変化 (71) が減少の主要因であろう。

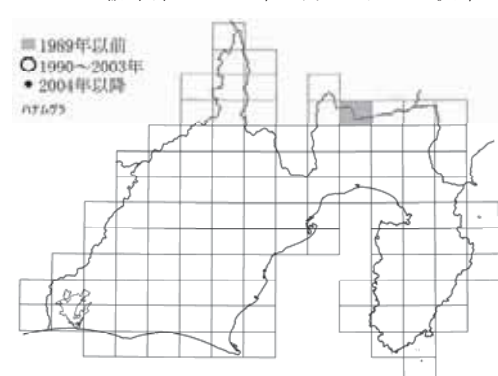
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に最適な環境を維持するように努めること。

(湯浅保雄)



©2020 K.Murofushi
栃木県 2019年7月13日 室伏幸一



サンブクリンドウ *Comastoma pulmonarium* (Turcz.) Toyok.

subsp. *sectum* (Satake) Toyok.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

越年草。高さ2~5 cm。茎には稜があり紫褐色、分岐は1~2本。茎葉は柄がなく三角状広披針形で長さ1~3 cm、中脈が目立つ。花期は8~9月。花は葉腋から伸びた枝に頂生する。花冠は長さ1~1.5 cmで青紫色から白色。花冠基部の内面に蜜腺が2個。近縁のオノエリンドウは蜜腺が1個。

2. 分布

日本固有亜種で、本州（中部地方）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。本県は分布南限。

3. 生育環境

高山帯の岩礫地や疎草地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスの一部に局限して生育している。ほとんどの産地では、草本類の圧力を受けて、産量は多くない。

5. 減少の主要因と脅威

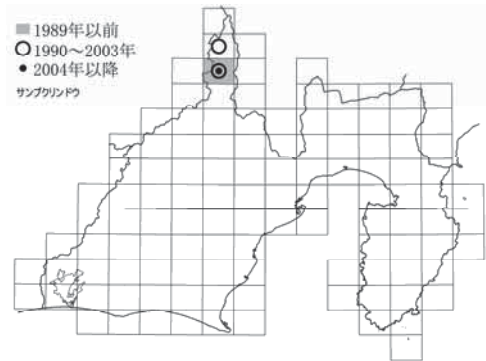
産地がきわめて限定されており(61)、人の踏みつけ(51)や盗掘(41)による個体数減少が指摘されている。加えて、シカの食害(52-1)、植生変化(54)が発生している。

6. 保護対策

本県の個体は、環境省新宿御苑に種子が保存され、保護増殖が図られている。
(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2004年8月10日 宮崎一夫



コヒナリンドウ *Gentiana laeviscula* Toyok.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草または越年草。高さ3~7 cm。根出葉は卵形で長さ5~15 mm。雪解け直後の短い期間に開花。花期は5~6月。花は基部から分岐した茎頂につき、水色を帯びた白色で上向きに開く。萼筒は長さ4~8 mm、裂片は三角形。花冠は長さ6~12 mm、裂片は卵形である。草丈が低く、花期も短い期間のため、発見が難しい。

2. 分布

日本固有種で、本州（日光、白山、南アルプス）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山帯の日当たりがよい疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は限られていて、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

産地がきわめて限定されており(61)、人の踏みつけ(51)や盗掘(41)による個体数減少が指摘されている。加えて、シカの食害(52-1)、植生変化(54)が発生している。

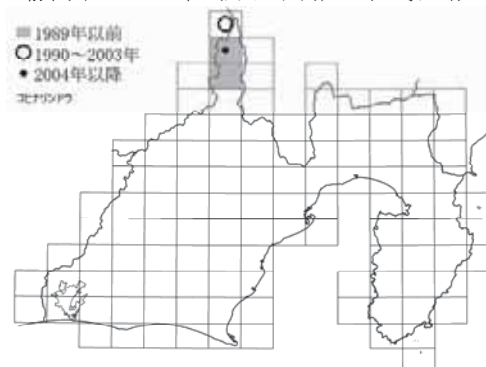
6. 保護対策

登山道を迂回整備し、踏みつけを避ける対策が必要である。

(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2012年(月日不明) 山崎由晴



オノエリンドウ *Gentianella amarella* (L.) Borner

subsp. *takedae* (Kitag.) Toyok.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

二年草。高さ5~20 cm。葉は対生して茎を抱く。花期は8~9月。萼筒は長さ4~6 mm。花は茎の上部に数個つけ、上向きから横向きに開く。花冠は筒形で長さ2~2.5 cm、紅紫色であるが稀に白色がある。花冠裂片は三角形で斜開する。内片は細かく中裂する。

2. 分布

日本固有亜種で、北海道、本州（中部地方）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布し、分布の南限である。

3. 生育環境

高山帯の砂礫地で、草本が疎らで湿潤な草地に生育する。

4. 生育状況

産地は局限していて、産量もきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

産地がきわめて限定され(61)、人の踏みつけ(51)や盗掘(41)による個体数減少が指摘されている。加えて、シカの食害(52-1)、植生変化(54)が発生している。

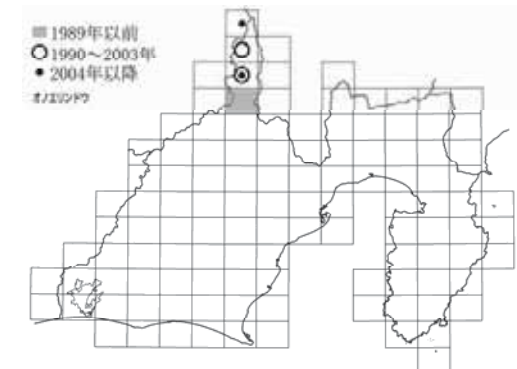
6. 保護対策

本県の個体は、環境省新宿御苑に種子が保存され、保護増殖が図られている。産地情報の公開に配慮して、さらなる自生地の行政的な保護が必要である。

(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2004年8月7日 宮崎一夫



アカシリンドウ *Gentianopsis yabei* (Takeda et H. Hara) Ma ex Toyok.

var. *akaisiensis* T. Yamaz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

一年~越年草。高さ4~30 cm、時に60 cm。茎は上部で分枝する。茎葉は無柄で茎を抱き、最下部の葉は大きく広披針形で長さ4 cm。花期は8~9月。花は茎頂や上部の葉腋から、2~12 cmの花柄を伸ばし単生する。花冠は長さ15~25 mm、裂片は片巻状に並び青紫色で上側の縁は平たくなる。

2. 分布

日本固有種かつ南アルプス固有変種で、本州（中部地方）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山帯の尾根周辺で砂礫地の低茎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は局限する。株数もきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)とマニアによる採取(41)が脅威である。

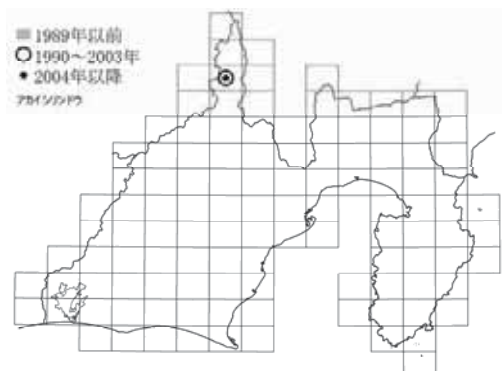
6. 保護対策

本県の個体は、環境省新宿御苑に種子が保存され、保護増殖が図られている。産地情報の公開に配慮して、さらなる自生地の行政的な保護が必要である。

(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2010年8月31日 湯浅保雄



ヒメセンブリ *Lomatogonium carinthiacum* (Wulfen) Rchb.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。高さ3~10 cm。葉は対生し、長楕円形または卵形で柄がなく、長さ5~15 cm、幅2~7 mm。花期は8月末~9月、茎頂に1~数個つける。花冠は淡青紫色、深く4~5裂し、裂片は長さ1~1.5 cm、下部に2個の蜜腺があり、蜜腺は数裂する鱗片で囲まれる。

2. 分布

国外ではアジアから北半球の寒帯に広く、国内では本州(八ヶ岳、南アルプス)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯の砂礫地に生える。登山道沿いにもみられる。

4. 生育状況

小型で花が開いていないと目立たない。きわめて稀な植物で産量も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

産地がきわめて限定され(61)、人の踏みつけ(51)や盗掘(41)による個体数減少が指摘されている。加えて、シカの食害(52-1)や踏み荒らしが確認されている。植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

踏みつけを避けるため、登山道以外に立ち入らないようにする対策が必要である。
(山崎由晴)



静岡市 2017年9月29日 荒川史子



シノメソウ *Swertia swertopsis* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年~二年草。茎は方形で直立し、高さは30~40 cm。茎葉は卵状楕円形で長さ5~10 cm、幅2~4.5 cm。膜質で5~7脈がある。花期は9~10月頃で葉腋に束生する。白色鐘形で5~12 mmの柄がある。花冠は長さ8~10 mm。5深裂し内面上部に紫色の斑点がある。中央から少し下方に楕円形の蜜腺溝が2個ある。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。伊豆は北東限自生地である。

3. 生育環境

通常は、丘陵地から湿った谷間まで広い範囲に生育する。県内では暖帯上位の落葉樹林に、木漏れ日を受けて生育する。

4. 生育状況

近年、シカによる食害でほとんど消滅した。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取(41)とシカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

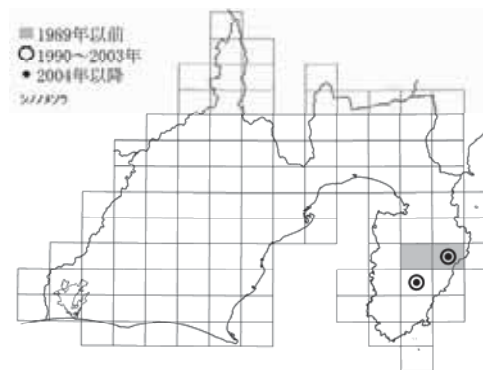
6. 保護対策

シカによる食害を防ぐため防護柵を設置すること。

(湯浅保雄)



伊豆市 2007年8月5日 加藤 徹



クサタチバナ *Vincetoxicum acuminatum* Decne.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更コード4 キョウチクトウ科 Apocynaceae
[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ30～60 cm。茎は直立する。葉は対生し、卵～長楕円形で長さ5～13 cm、先は鋭く尖る。花期は4～6月。花は茎の上部に集まり長い柄があり、花冠は径約2 cm、白色で5裂する。袋果は披針形で長さ4～6 cm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国（東北部～東部）に、国内では本州（福島県南部以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。近年、県内の分布が確認された。

3. 生育環境

低山地の二次林内に生育する。

4. 生育状況

湖西市内の落葉樹林内に少数株が生育する。花つきは少ないが、よく結実はしている。

5. 減少の主要因と脅威

生育地は限られている。生育地がコナラなどの二次林内であるため林の遷移進行による被陰(54)により生育環境が悪化するおそれがある。

6. 保護対策

林の保全のため、間伐や下草刈りなどが必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2015年4月29日 内藤宇佐彦



ムラサキ *Lithospermum erythrorhizon* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし ムラサキ科 Boraginaceae
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さは40～70 cm。根は太く、シコニンという色素を含み、乾燥すると濃紫色となる。茎は上部で枝分かかれし、葉とともに斜上する長い粗毛が多い。葉は披針形で互生し、表面の主脈とともに数個の側脈がへこむ。花期は6～7月。葉腋に白色で、径約4 mmの花をつける。花筒の先端は5に裂け平開する。果実は4個の分果に分かれる。類似のイヌムラサキの葉では、主脈のみがへこむ。

2. 分布

国外ではアムール、中国、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯と冷温帯の山地、丘陵地、山麓などの乾いた草原。

4. 生育状況

過去には広く分布していたが、産地も個体数も非常に少なくなった。

5. 減少の主要因と脅威

草地開発(16)や草地の管理放棄による植生遷移(54)の進行で生育環境が消失したことが、減少の主要因である。

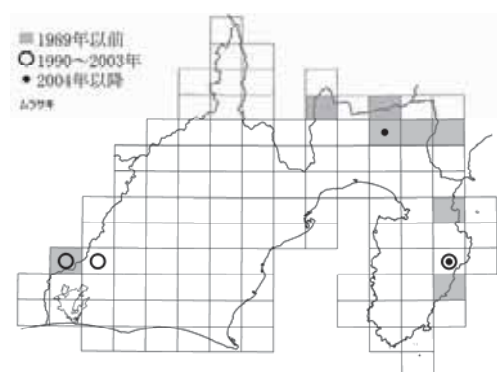
6. 保護対策

草地の維持管理による生育環境の保全が必要である。

(湯浅保雄)



御殿場市 2003年6月14日 杉野孝雄



ヤマハウズキ *Physalistrum chamaesarachoides* (Makino) Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) 要件 (①, ②, ⑤) 変更なし

ナス科 Solanaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。葉は卵形で質薄く、縁には少数のあらい鋸歯がある。葉柄は長さ 1~5 cm、葉身は長さ 5~12 cm、幅 2.5~7 cm。花期は 8~9 月。葉腋に 1 花をつける。花冠は白色、杯状で浅く 5 裂する。径 7~8 mm。液果は球状で熟すと黄色になる。萼は緑色で果時には先のつぼんだ袋状となり、長さ 12~15 mm。10 本の稜がある。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯山地のやや湿った照葉樹林内。

4. 生育状況

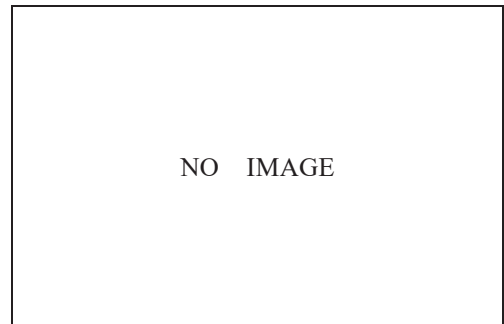
静岡県植物誌 (1984) には、多くの産地が載っているが、前回 (2004 年) 調査でも、今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) や土地造成 (23) などで生育地の消滅が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が見つかった場合は、生育環境に配慮した保護が必要である。
(湯浅保雄)



シシラン *Lysionotus pauciflorus* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

イワタバコ科 Gesneriaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する常緑小低木。茎は 2~3 mm と細く、樹幹に着生するコケの中を這い、まばらに 20~30 cm の枝を出す。葉は対生、または 3~4 枚が輪生する。葉身は厚い革質。長さ 2~7 cm の披針形。花期は 7~8 月。上部の葉腋に短い花序を出し 1 花をつける。花冠は淡桃色で長さ 3~4 cm。筒状で先は浅く 5 裂する。蒴果は長さ 4~7 cm の線形である。

2. 分布

日本固有種で、本州 (伊豆半島及び京都以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯の自然林で、コケのついた大木に着生する。

4. 生育状況

前回 (2004 年) 調査時には伊豆で確認されたが、今回の調査では確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

天然林の伐採 (11) と大木の枯死 (54)、園芸採取 (41) が減少の主要因である。

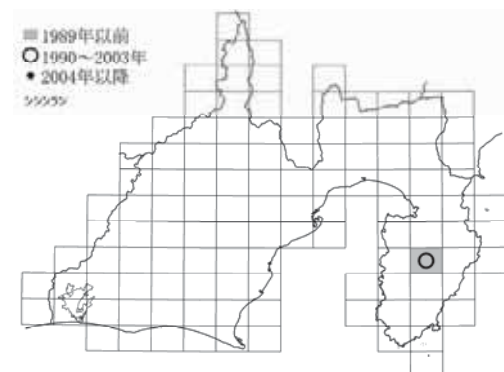
6. 保護対策

天然林とそれを構成する太径木の保全。

(湯浅保雄)



浜松市 (植栽) 2015 年 7 月 2 日 宮崎一夫



マルバノサトウガラシ *Deinostema adenocaulum* (Maxim.) T. Yamaz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 15~18 cm。茎は基部から数本に分かれ直立する。葉は対生し、卵形で長さ 4~10 mm、幅 3~8 mm で 5~7 本の脈がある。花期は 8~10 月。上部の葉腋から細長い花柄を出し、長さ 4 mm ほどの淡紫色の 1 花をつける。蒴果は卵形で長さ 2 mm。

2. 分布

国外では韓国の済州島、中国の貴州省に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湿地や水田。

4. 生育状況

2004 年版 RDB に、1989 年以前に浜松市の中田島海岸で確認されたという情報が載っているが、その後、県内では確認されていない。

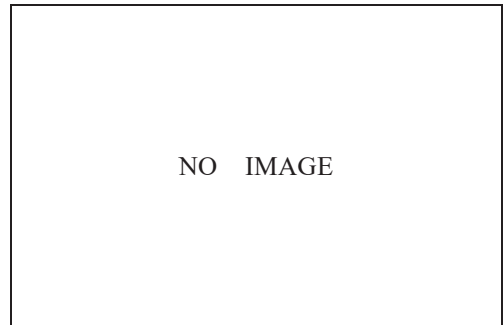
5. 減少の主要因と脅威

海岸整備 (14) による砂防林間の湿地の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合には、その生育環境に配慮して保護すること。

(湯浅保雄)



カイジンドウ *Ajuga ciliata* Bunge var. *villosior* A. Gray ex Nakai

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更コード 5

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~40 cm。茎は直立し、葉とともに多細胞の白い毛を密生する。中部の葉は卵形または広卵形で長さ 3~8 cm、不揃いなあらい鋸歯がある。花期は 5~6 月。上部の葉腋に数個の花を密に輪状につける。花冠は紅紫色で、細い筒部の長さは 10~12 mm。果実は 4 個の分果からなる。

2. 分布

日本固有変種で、北海道、本州、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

やや乾いた明るい落葉樹林内や草原に生育する。

4. 生育状況

富士山周辺に分布するが、産地は限られ個体数も少なく、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境である草原の人工林化 (16) と、残存草原では管理不足による植生遷移 (54) が減少の主要因である。

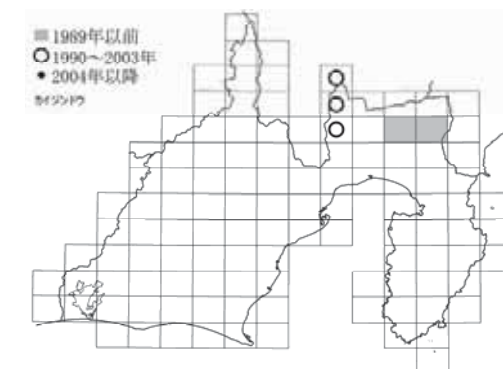
6. 保護対策

特になし。

(湯浅保雄)



山梨県 2019年7月2日 宮崎一夫



ムシャリンドウ *Dracocephalum argunense* Fisch. ex Link

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

シソ科 Labiatae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~50 cm。茎の断面は4角で下向きの細毛がある。葉は対生し、広線形で質は厚く、長さ2~6 cm、幅0.2~0.5 cm。また、葉腋に数個の葉を叢生する。花期は6~7月。茎頂に短い穂を作り、青紫色の花を密につける。花冠は3~3.5 cm。外面に毛がある。

2. 分布

国外ではシベリア東部、中国北部、朝鮮半島に、国内では北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では伊豆に分布し、愛知県とともに分布の南限生育地である。

3. 生育環境

温帯の日当たりのよい草原。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、伊豆半島の玄岳の記録があるが、その後、確認された情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

草原の管理放棄(53)による植生の遷移(54)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、定期的な草刈りによって、草原を維持管理すること。

(湯浅保雄)



北海道 2019年7月15日 宮崎一夫



ミズネコノオ *Pogostemon stellatus* (Lour.) Kuntze

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B(EN) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さは15~50 cm。横走する地下茎や匍匐枝を出さない。茎の中ほどで多く分枝する。葉は3~6個ずつ輪生し、長さ2~6 cm、幅2~4 cm。花期は8~10月。花穂は茎頂と枝先にでき、長さ2~5 cm、径4~5 mm。花は白色または淡紅色で密につく。類似のミズトラノオは多年草で、横走する地下茎や匍匐枝があり、葉はふつう4輪生、花穂の径は12~14 mmと太い。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、東南アジアに、国内では本州(関東以西)、四国、九州、琉球(徳之島)に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

休耕田や低湿地。

4. 生育状況

確認されている生育地は2ヶ所のみである。静岡市の麻機遊水地周辺に保護されている生育地がある。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)や植生遷移(54)及び水田での除草剤の使用(32)が減少の主要因である。

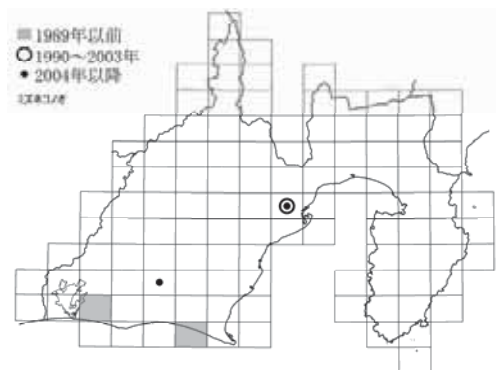
6. 保護対策

攪乱すると埋土種子が発芽するので、かつての生育地を積極的に攪乱すること。

(湯浅保雄)



静岡市 2016年10月11日 宮崎一夫



ミズトラノオ *Pogostemon yatabeanus* (Makino) Press

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~60 cm。根茎を引いて群生する。葉は広線形で長さ3~7 cm、3~4個を輪生する。花期は8~10月。花穂は長さ2~8 cmあり、茎頂に1個を直立する。花は紅紫色で密生し、雄蕊を含めた長さは7 mm。花糸は紅紫色で長毛が密生する。分果は長さ0.7 mmで暗褐色。近縁種のミズネコノオは、葉が3~6個輪生して、花は雄蕊を含めた長さ3 mm、花糸は短毛が疎らにある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の多湿地や耕作放棄水田に生育する。

4. 生育状況

西部にあったが、今回の調査では確認されていない。生育適地が土地造成により失われた。

5. 減少の主要因と脅威

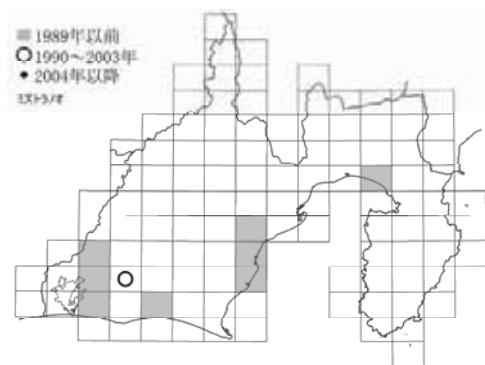
乾田化と湿地開発(15)が主要因である。農薬の影響(32)や園芸採取(41)、踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

湿地開発を回避して、生育地を保護保全することが重要である。踏圧を防ぐために木道を敷設することも必要である。(宮崎一夫)



浜松市 1994年10月7日 宮崎一夫



キセワタ *Leonurus macranthus* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更コード1,3

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ60~100 cm。茎は直立し四角形。葉は卵形あるいは狭卵形で、長さ5~9 cm、幅3~7 cm。欠刻状のあらい鋸歯がある。花期は8~9月。花は上部の葉腋に数個ずつつき、紅紫色で長さ25~30 mm、萼は長さ15 mmであらい毛がある。花冠は外部に白毛が密にあって白く見える。

2. 分布

国外では中国大陸に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地や丘陵の草地、あるいは川岸の草地。

4. 生育状況

現在では伊豆半島の草原にわずかに見られるだけとなった。

5. 減少の主要因と脅威

草原の減少(16)。かつては各地の茅刈場などの草地に広く分布していたが、草地の人工林化とともに減少した。

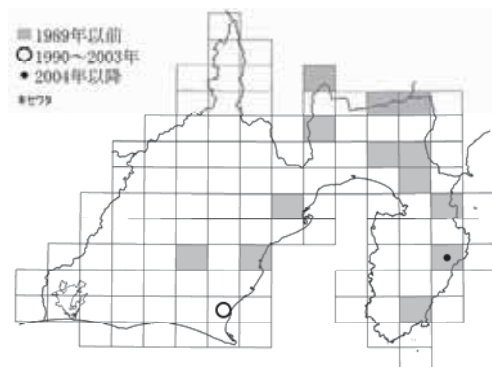
6. 保護対策

現存する草原を火入れと草刈りで維持すること。

(湯浅保雄)



牧之原市 1994年8月17日 内藤宇佐彦



コナミキ *Scutellaria guillelmii* A. Gray

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さは20~40 cm。茎は細く直立し、基部でわずかに分枝する。茎の地下に細長い走出枝が出る。葉は心形で先は丸く、長さ幅とも1~2 cm。両面に毛がある。花は5月に葉腋に1個ずつつき、白色で長さ7~8 mm。萼には腺をもった開出軟毛がある。分果は翼があって径約2 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

海岸に近い草地。

4. 生育状況

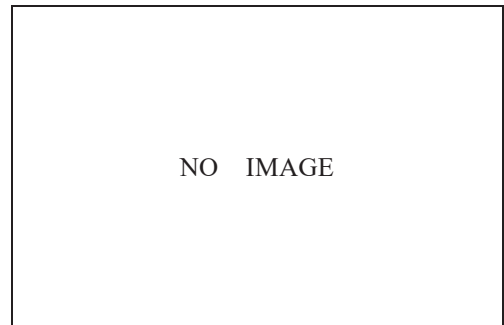
静岡県植物誌(1984)には、下田市と静岡市の大崩海岸が記録されているが、前回(2004年)の調査でも、今回の調査でも生育は確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の整備(14)と植生遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育に適した環境を保全すること。
(湯浅保雄)



ゴマクサ *Centranthera cochinchinensis* (Lour.) Merr.

var. *lutea* (H. Hara) H. Hara

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B(EN) (要件-①②⑤) 変更なし

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ10~60 cm。茎は直立してほとんど枝を出さず葉は厚く狭披針形で先は尖り、両面に剛毛が生える。縁は全縁か少数の鋸歯があり、長さ1.5~6 cm。幅2~8 cm。上部の葉は小型で苞葉となる。花期は8~9月。茎の上部に穂状花序を作り、黄色な花をまばらにつける。花冠は鐘形で長さ2 cm、先端は開いて5裂する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、インドシナに、国内では本州(関東以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湿地、池沼、湿田などに生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(2004)に浜岡町、浜松市、湖西市などの記録があるが、前回(2004年)調査及び今回の調査でも生育は確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の埋め立てや乾田化(15)、除草剤散布(32)などが減少の主要因である。

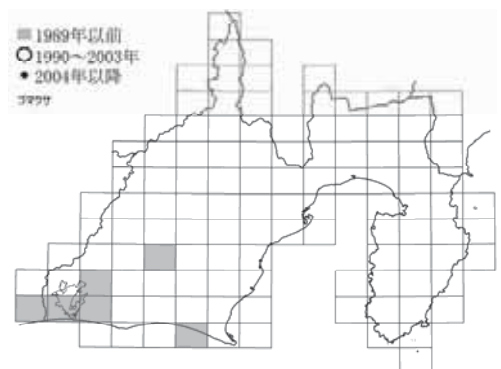
6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境に配慮した保護が必要である。

(湯浅保雄)



© PIXTA



ミカワタヌキモ *Utricularia exoleta* R. Br.

(=イトタヌキモ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類(EN) (要件 -) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類(EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類(VU)]

1. 種の解説

浮遊性または湿生の一年生または多年生。食虫植物。葉はごくまばらで捕虫嚢も1~2個である。花期は8~10月。高さ5~15 cmの花茎に花を1~3個つけ、淡い黄色で全幅3~4 mmである。

2. 分布

国外ではオーストラリアに、国内では本州、九州、琉球に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

低地の丘陵地にある湿地やため池に生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺と浮島沼の記録がある。近年生育が確認されていない。

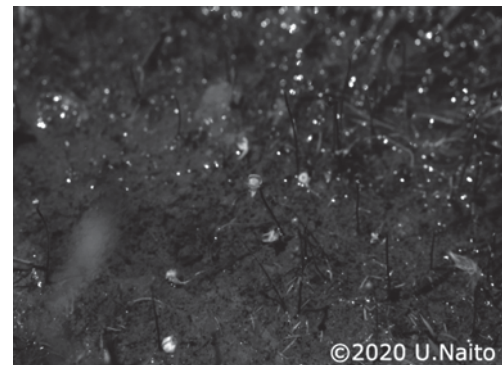
5. 減少の主要因と脅威

湿地や池沼の消失(12、15)や水質の悪化(31)がその要因である。

6. 保護対策

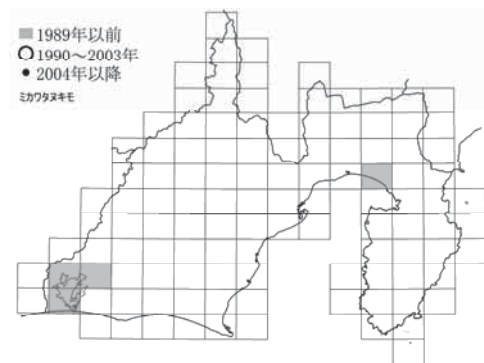
生育地が確認された場合は生育環境に配慮した保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito

愛知県 1975年8月29日 内藤宇佐彦



コタヌキモ *Utricularia intermedia* Heyne

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類(EN) (要件 -) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類(EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

浮遊性または湿生の多年生。食虫植物。水中葉は小型で分岐し捕虫嚢をつけないが、地中茎にはたくさんの捕虫嚢をつける。花期は6~9月。高さ5~15 cmの花茎に花を1~5個つけ、黄色で全幅12~15 mmである。

2. 分布

国外では千島、朝鮮半島より北半球に広く、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部の低地に稀に分布する。

3. 生育環境

湿地や池沼の浅水域に生育する。

4. 生育状況

沼津市と藤枝市の記録がある。近年生育が確認されていない。

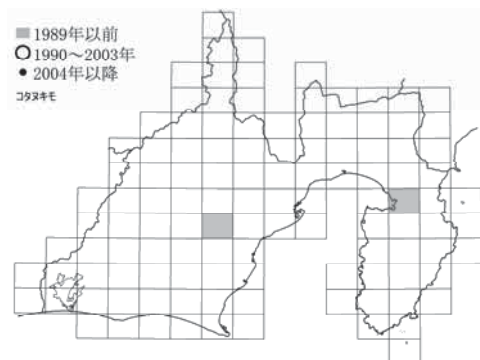
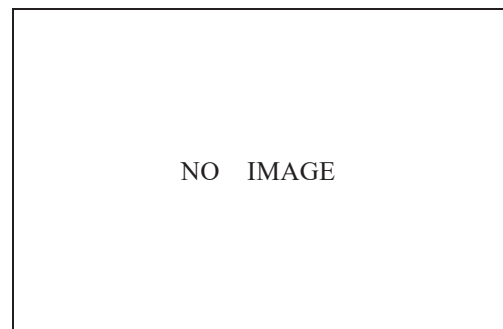
5. 減少の主要因と脅威

湿地や池沼の消失(12、15)や水質の悪化(31)がその要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は自生地の保全が必要である。

(内藤宇佐彦)



ヒメタヌキモ *Utricularia minor* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

浮遊性または湿生の多年生。食虫植物。葉はまばらで裂片が二又状に3~4回分岐し、捕虫嚢をまばらにつける。花期は8~9月。高さ5~25 cmの花茎に花を2~10個つけ、淡い黄色で直径8~10 mmであるが、開花は稀である。

2. 分布

国外では北半球の温帯~亜寒帯域に広く、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地にある湖沼、ため池や湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡市と浜名湖周辺の記録がある。近年生育が確認されていない。

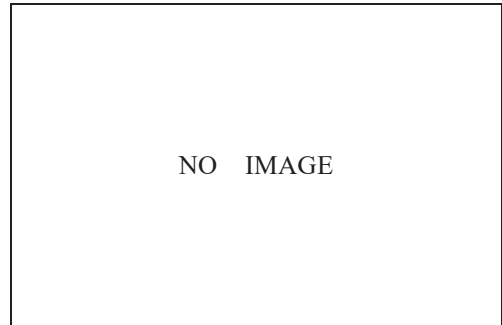
5. 減少の主要因と脅威

湿地や池沼の消失(12、15)や水質の悪化(31)がその要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は自生地の保全が必要である。

(内藤宇佐彦)



ヒメミミカキグサ *Utricularia minutissima* Vahl

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN)]

1. 種の解説

小型の多年草。食虫植物。糸状の茎と葉が地下に伸びる。地下部にまばらに捕虫嚢をつけ、花期は8~9月。高さ1~3 cmの花茎に花を1~5個つけ、淡紫色で長さ約2~3 mm、距は前へ向く。

2. 分布

国外ではアジアからオーストラリアに、国内では本州(静岡県、愛知県、三重県)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地にある湿地の主として泥上に生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺の記録がある。近年生育が確認されていない。きわめて小型の植物であり、見落とされているおそれもある。

5. 減少の主要因と脅威

宅地開発で水源が絶たれたことによる湿地の荒廃(23)と湿地そのものの消失(15)がその要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は自生地の保全が必要である。

(内藤宇佐彦)



愛知県 1976年8月4日 内藤宇佐彦



ヒメシロアサザ *Nymphoides coreana* (H. Lév.) H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更コード 6

ミツガシワ科 Menyanthaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

浮葉性の多年草。葉は1~3個つき、卵形または卵状円形で径2~5 cm。花期は7~9月。花は径約8 mm、白色で中心は黄色の花である。ガガブタに似ているが、葉も花も小型で、花冠裂片の縁に毛がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ベトナムに、国内では本州、四国、九州、琉球(宮古島、石垣島、西表島、与那国島)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

池沼に生育する浮葉植物である。

4. 生育状況

浜松市に生育している。生育地の減少や湿地、池の乾燥化による縮小の傾向が見られ、生育環境が厳しくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の湿地や池が、土地造成のために埋め立てられ消失した(15、23)ことや、乾燥化のために生育環境が悪化(54)したことが要因である。

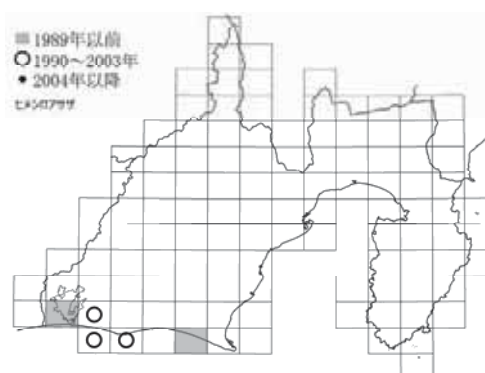
6. 保護対策

現在残る生育地の保全と乾燥化対策も必要がある。

(内藤宇佐彦)



©2020 T.Sugino
浜松市 2002年8月27日 杉野孝雄



アズマギク *Erigeron thunbergii* A. Gray subsp. *thunbergii*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ20~30 cm 短い地下茎がある。根出葉は束生し、へら形で長さ4.5~8 cm、幅1~2 cm。花期は4~7月。根出葉の間から花茎を出し、その先に1個の頭花をつける。頭花は径3~3.5 mm。舌状花は雌性で、多数が3列にならぶ。舌部は青紫色で長さ15 mm、幅1.5 mm。筒状花は両性で黄色。瘦果は狭長楕円形で長さ2 mm、冠毛は帯赤色。

2. 分布

日本固有亜種で、本州(中部地方以北)に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の乾いた草原。

4. 生育状況

かつては広い範囲に生育していたが、草原の減少に伴いほとんど見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

草原の減少(16)と植生遷移(54)、さらに園芸採取(41)が減少の主要因である。

6. 保護対策

定期的な火入れや刈り払いによって、草原を維持管理すること。

(湯浅保雄)



©2020 K.Miyazaki
新潟県 2016年5月22日 宮崎一夫



ネコヤマヒゴタイ *Saussurea modesta* Kitam.

(=キリガミネトウヒレン)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 35~70 cm。根出葉や茎の基部の葉は披針形または線状披針形。葉柄を含めて長さ 15~25 cm、茎の葉は茎に沿下する。花期は 8~10 月。頭花は少数で密散房状につく。総苞は長さ 9~10 mm で紫褐色、くも毛がある。花冠は長さ約 9 mm で紫色。

2. 分布

日本固有種。国内では本州(関東地方~中国地方)に、県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の湿原。県内では低地の湿原。

4. 生育状況

前回(2004年)調査では3ヶ所で確認されているが、今回の調査では1ヶ所しか確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

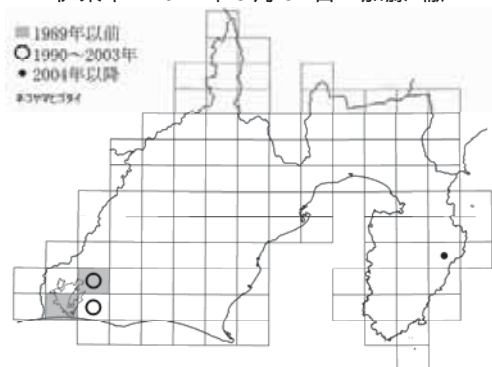
湿原の開発(15)や管理放棄による植生遷移(54)の進行が減少の主要因である。

6. 保護対策

本県の生育地は高原植物の遺存生育地であり貴重である。生育地が見つかった場合は、適切な管理と保全が必要である。(湯浅保雄)



伊東市 2012年8月31日 加藤 徹



アベトウヒレン *Saussurea nipponica* Miq. subsp. *savatieri* (Franch.) Kitam.

var. *savatieri* (Franch.) Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更コード 3

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~70 cm。茎は直立し翼があり、褐色と黒褐色の毛がある。下部の茎葉は狭卵形から卵形で、長さ 7~16 mm、幅 5~10 mm、あらい鋸歯があり、先端は尾状鋭尖頭、基部は心形。葉柄は長さ 3~11 cm で翼がある。花期は 8~10 月。枝先に散房状に頭花をつける。総苞は鐘状筒形で長さ 12~18 mm、径 6~10 mm。花冠は紅紫色。

2. 分布

日本固有変種で、本州(静岡県)に分布する。県内では中部(安倍川源流部)に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉広葉樹林内と林縁。

4. 生育状況

現在の生育地はシカの近寄れない崖地に限られている。

5. 減少の主要因と脅威

シカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

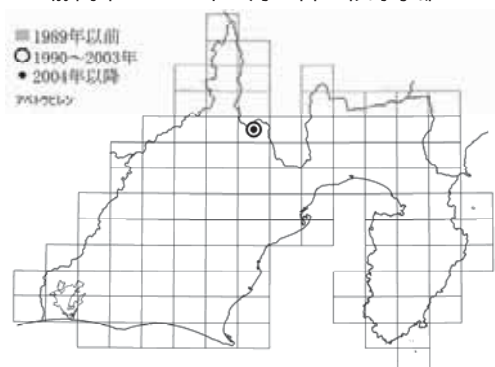
6. 保護対策

シカの食害を防ぐ対策が必要である。

(湯浅保雄)



静岡市 2002年7月9日 杉野孝雄



ヒメヒゴタイ *Saussurea pulchella* (Fisch. ex Hornem.) Fisch.

(=コウライヒメヒゴタイ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更コード 9, 18

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

二年草。高さ 50~150 cm。茎は直立して稜があり、上部で分枝する。根出葉は花時には枯れる。茎葉は楕円形で長さ 12~18 cm、羽状深裂または全縁。花期は 8~10 月。頭花は径 12~16 mm で多数つく。総苞は筒形で長さ 11~13 mm、総苞片は先端に淡紅紫色の付属体がある。花冠は紫紅色。冠毛は 2 列。近縁のミヤコアザミやキクアザミは総苞片先端に付属体がない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、モンゴル、サハリンなどに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部、中部、東部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地から低山の日当たりのよい草地や崖地に生育して、蛇紋岩地にも見られる。

4. 生育状況

産地、産量は少ない。産量は年による消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

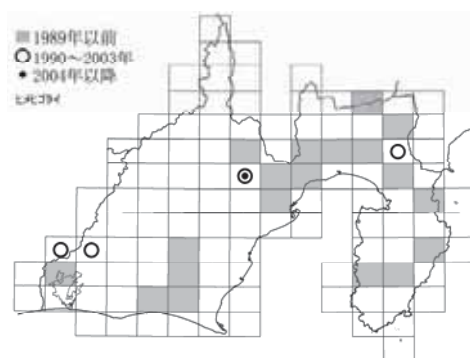
植生遷移 (54) が主要因である。林道の整備拡幅などによる崖状地の改変 (24)、園芸採取 (41) など脅威である。

6. 保護対策

植生遷移を抑制することや、林道法面などに外来種やコンクリートを吹き付けないことが重要である。(宮崎一夫)



静岡市 2018年10月22日 宮崎一夫



コウリンカ *Tephrosieris flammea* (Turcz. ex DC.) Holub

subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B. Nord.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更コード 3

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~60 cm。茎は直立し枝を分けない。上方は白色の綿毛が多く、下方は紫色を帯びて角張っている。根葉はさじ形で翼のある長い柄がある。花期は 7~9 月。茎の先に散房状に 6~13 個の頭花をつける。頭花の径は 3~4 cm。長い舌状花は濃い橙色を帯びた赤色である。瘦果の長さは 3 mm、密に毛があり、冠毛は長さ 6.5~8 mm、汚白色。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯の適湿の草原。

4. 生育状況

最近になってシカによる食害で急激に減少した。

5. 減少の主要因と脅威

草原の管理放棄 (53) による植生変化 (54)。最近ではシカによる食害 (52-1) で急激に減少している。

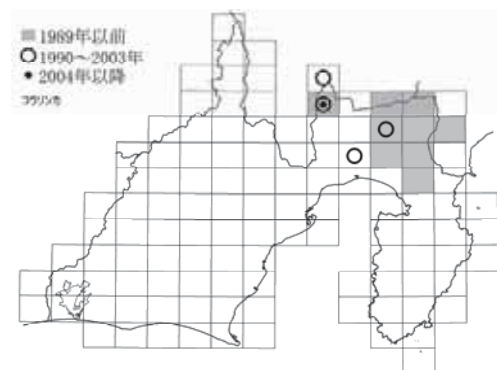
6. 保護対策

草刈りなどによる草原の維持とシカによる食害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



富士宮市 1999年9月18日 杉野孝雄



コゴメヒョウタンボク *Lonicera linderifolia* Maxim. var. *konoj* (Makino) Okuyama

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN)]

1. 種の解説

落葉低木。葉は楕円形で、長さ10~18 mm、幅5~8 mm、先は鋭頭、両面やや長い軟毛がある。花期は5月。5~10 mmの花柄の先に濃紫紅色の2花を下垂する。花は5数性で高盆形。長さ約5 mm、裂片は5つ、同形同大で長さ1.5 mm。液果は球形で2個ならんで赤く熟す。径4 mm。数個の種子がある。

2. 分布

日本固有変種で、長野県南部(ハヶ岳)と静岡県に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に荒川岳の記録があるが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

個体数が少ない植物であり、生育地の環境変化(71)が減少の主要因と考えられる。

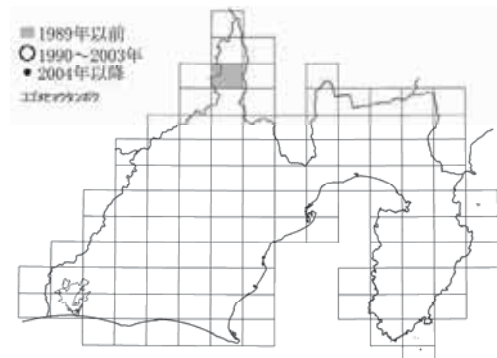
6. 保護対策

生育地周辺では、登山路以外の立ち入りを禁止するなどの対策が必要である。

(湯浅保雄)



長野県 2017年6月5日 室伏幸一



イワツクバネウツギ *Zabelia integrifolia*

(Koidz.) Makino ex Ikuse et S. Kuros.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ2 m以下。枝には6条の縦溝がある。葉は対生し、倒卵形から披針状長楕円形。長さ2.5~7 cm、幅1~3.2 cm。基部はふくらんで相対する葉と合着する。花期は5~6月。枝の先端に2花をつける。萼片は4個。花冠は白色で淡紅色を帯びる。筒部は長さ8~15 mm。先端は4裂片に分かれる。

2. 分布

日本固有種で、本州(中西部)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

石灰岩地、稀に蛇紋岩地に生育する。

4. 生育状況

産地は限られており、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

産地は限られており(61)、生長の速い他の植物との競合(71)が減少の主要因である。

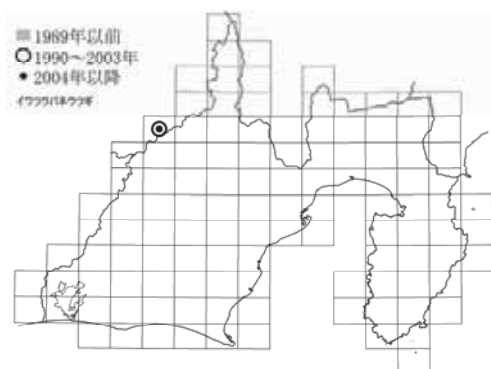
6. 保護対策

生育地を消失させないことと、生長の速い隣接木の整理が必要である。

(湯浅保雄)



浜松市(植栽) 2008年8月11日 宮崎一夫



ヤマナシウマノミツバ *Sanicula kaiensis* Makino et Hisauti

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15 cm、花後に 80 cm に達す。茎は直立し、ふつう枝分かれせず、先端に 2 枚の葉をほぼ対生につける。根生葉には柄があるが、対生葉はほぼ無柄。葉は 3 深裂し、裂片は長楕円形、縁に鋭い鋸歯と切れ込みがある。花期は 5~6 月。茎頂に 1~5 個の複散形花序をつけ、白色または紫色を帯びた花をつける。果実は楕円体、長さ約 4 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州(山梨県、長野県、静岡県)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉広葉樹林内。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、小山町の三国山地と富士宮市の毛無山の記録があるが、前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)による生育環境の変化とシカによる食害(52-1)が減少の主要因と考えられる。

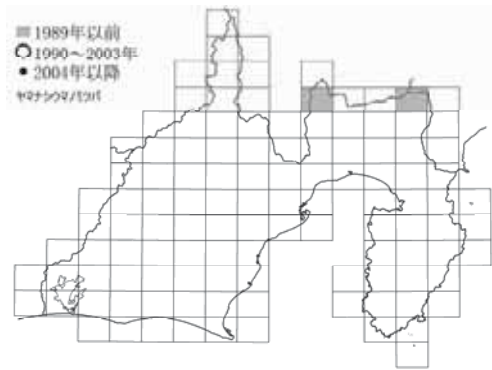
6. 保護対策

落葉広葉樹林の針葉樹林への林種転換を避けること。生育地が見つかったら、シカよけの柵を設置すること。

(湯浅保雄)



山梨県 2019年7月7日 室伏幸一



フキヤミツバ *Sanicula tuberculata* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

小型の多年草。高さ 8~20 cm。根出葉は細長い柄があり、径 1.5~3 cm、5 全裂する。花茎状の茎があり、頂部には葉状の総苞片が対生してつき 3 深裂する。花期は 4~5 月。花は緑色または白色で小さい。

2. 分布

国外では朝鮮半島中南部に、国内では本州(静岡県以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

低山地の明るい二次林内に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。個体数はごくわずかである。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の林の伐採(11)や遷移進行(常緑樹の生育による被陰)(54)によって容易に消滅するおそれがある。

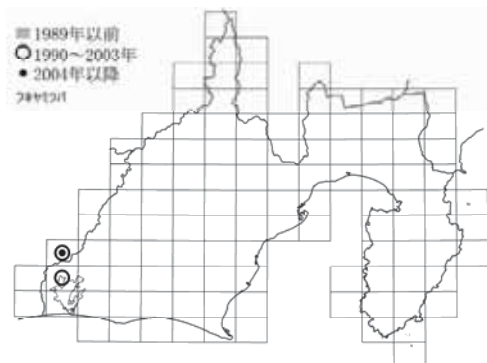
6. 保護対策

産地は少ないので生育地が消失しないようにし、植生遷移を抑制して保護を図る必要がある。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2013年3月31日 内藤宇佐彦



ヌマゼリ *Sium suave* Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H. Hara
(=サワゼリ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件 -) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さは60~100 cm。茎は中空で稜がある。葉は1回羽状複葉で小葉は対生して7~9個。側小葉は細長く長披針形で無柄、長さ3~10 cm。花期は7~9月。枝先にやや小さい複散形花序をつけ、白色の花を多数つける。花弁は5枚、雄蕊5本。果実は倒卵形で長さ3 mm。果実の断面はほぼ五角形である。

2. 分布

国外では中国北部、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼の岸や湿地に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に静岡市と湖西市の記録があるが、前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

沼沢地(12)や湿地の開発(15)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が見つかったら、最適な生育環境で保護すること。

(湯浅保雄)



宮崎県 2002年9月29日 内藤宇佐彦

